

ザルカ明カナリ又跋羅摩那ハ聖書註釋ト異リテ總テ宗教的ノ事柄ニ關シテハ或ル權利ヲ有セリ
韋陀文學ノ第三段即チ最終段トシテ跋羅摩那ニ次グモノヲ修多羅トス修多羅トハ之レヲ釋セバ糸
或ハ手ノ義ナリ此ハ直ニ跋羅摩那ニ次グモノ否ナ寧ロ跋羅摩那ノ續篇ト稱スベキモノニシテ其中
ニハ韋陀中ニ發達シ跋羅摩那中ニ増加シタル波羅門教全體ノ禮典ヲ包有セリ故ニ其ノ特質ハ其簡
略ナルヲ及ビ信條的ナルヲナリ然リ而シテ其ノ簡略ナルハ前ニ韋陀及ビ跋羅摩那ナソノ浩瀚ナル
書冊中ニ靈有セラントタル韋陀教全局ヲ包括的ニ識得スルノ必要ヨリ生ゼシ者ニシテ又其信條的及
ビ威權的ナルハ韋陀ノ宗教的觀念全體ノ完成ヲ表明セルヲ以テナリ」但シ幾千年間印度教ノ周圍
ニ鐵壁ヲ築キ總テ内外ノ改革ヲ遏止セシモノハ此ノ修多羅ニシテ人性ノ歴史中比類ナキ情態ヲ現
ゼシモノナリ然レド如何ニ永ク印度教ハ其絕對的受身ノ狀態、及ビ死シタルガ如キ、現在ノ有様ヲ
連續スルナランカハ誰モ預言スルモノハアルマシ

余輩ハ既ニ「リツグ」韋陀ハ韋陀文學中ニ尙然獨立セリト云ヘルガ更ニ三韋陀(「リツグ」韋陀ノ外)
ト修多羅トノ間ニハ「リツグ」韋陀ト修多羅トノ間ヨリ内部的ニ類似スルヲ多キヲ見ルニ及ンデ愈
々前言ノ眞實ナルヲ確認セリ故ニ今韋陀ノ宗教的及ビ精神的生活ノ全域ヲ會得センガ爲メニ之レ
ヲ四部ニ分チテ左ノ如ク排列スベシ

- リツグ韋陀 アリアン人種ノ思想及ビ宗教的生活ノ第一期ヲ代表ス
- 三韋陀 第二期ヲ代表ス
- 跋羅摩那 第三期ヲ代表ス
- 修多羅 第四期ヲ代表ス

然リ而シテ三韋陀、跋羅摩那、及ビ修多羅ノ三者ハ後章波羅門教ヲ論ズルニ及ンテ詳論スベケン
バ次節及ビ次章ニアリテハ其論述スル處只「リツグ」韋陀ニ止ムベシ

第三 「リツグ」韋陀之年代

此ノ問題ニ進入スルニ先ツテ吾人ノ注意シ置クベキヲハ印度ノ全ク信據ス可キ歴史上ノ記錄ヲ有
セザルヲナリサレハ吾人ハ此ノ國ノ古代ノ記者生活及其ノ著名ナル遺書ノ年代ニ付テハ只僅ヨリ
知ルヲ得ス但シ阿輸迦王ノ勅令ト其ノ佛教ヲ寬待否ナ國教トセシトノミ歴史上ノ證據アリテ吾人
ハ其ノ時代ヲ確定スルヲ得又之ニ前連續セル諸事件ノ時代ヲ稍々定メ得可シト雖モサレド阿輸
迦王ノ治世ハ往古ノ事ニアラザレバ「リツグ」韋陀ノ年代ヲ確定スルニ於テアマリ必要ナラズ此カ
ル土臺ヨリ進ムトナレバ精密ニ「リツグ」韋陀ノ出現セシ年代ヲ確定スルヲ甚難ナルハ敢テ諒々
スルヲ要セザルナリ然レバトテ其儘ニ捨テ置ク譯ニモイカチバ勉メテ之レヲ研究スルニ蓋シ此ニ
對スル外部的證據ハ一モナク只全ク内部的ノ證據ノミニ依ラザルベカラズ然リ而シテ其主要ナル
モノハ左ノ如シ

(一)「リツグ」韋陀ノ言語ハ餘程後世ノ梵語文學ノ言語ヨリ異ナレバ其ノ古キコトハ決シテ疑
フベキニアラズ而シテ其ノ後世ノ梵語ヨリ異ナル主要ノ點ハ其ノ希臘語及ビ其他ノインド、
ヨーロッパ語ノ如クニ音節ヲ有スルコトナリ又タ「リツグ」韋陀中ニハ後世ノ梵語中ニ發
見スル能ハザル併シ歐洲語中ニ類似シタル言葉アル多クノ言葉アリマクス、ミユラー氏曰ク
韋陀ノ文典ハ多クノ關係ニ付テ甚ハダ緊要ナリ而シテ其ノ敘事詩ノ文典トノ間ニ存スル差違
ハ十分其等ノ言語及ビ文學ノ二時代間ノ距離ヲ確定スルナラン」其等最古ノ頌歌中ニアル

多クノ語ハ大ニ原始ノ形ヲ保テリ而シテ其ヲ以テノ故ニ又タヤリシヤ及ビラテノ語ト類似ス

(二)「リツク」韋陀ノ思想ハ自カラ其ノ現出セシ時代ノ古キヲ示ス既ニ陳述セル如ク此ノ書ノ各行ハ明カニアリアン人ノ身心ノ強壯ナル状態ヲ表セリ而シテ此ハ吾人ヲシテ此ノ書ハ此ノ人民ガ印度ニ定住シ酷熱ナル氣候ニ感化サレザル以前既ニ存在セルモノナラザルベカラザルヲ推想セシムルナリ吾人ハ實ニ此ノ書ノ頌歌中ニハ椰子樹ノ下ニ靜坐シテ未來ヲ默想スル體々タル印度人ヨリモ寧ロ妻子眷族ヲ伴ヒ天幕家畜ヲ携ヘテ漂泊スル勇猛強壯ナルアフガン人ヲ見ルナリ但シ此等ノ頌歌ハ彼等ノ印度ニ移リタル後モ尙ホアリアン血液ノ彼等ノ脈中ヲ流通シツ、アリシ時代、身心上彼等ハ因奴羅神ヲ讚美スルヲ得シ時代ニハ謳歌セラシモノナラン

吾人ハ詢ニ此カル人民ノ後世ノ否ナ阿闍婆韋陀時代スラノ印度人ノ如キモノニ醜變スルニハ如何ニ長日月ヲ要セシヤヲ十分確定スル能ハザルナリ惟フニ此ノ問題ハ各人ノ想像ニ委スベキモノナラン乎

(三)佛教ハ基督降生第五世紀ニ婆羅門教ノ反動トシテ現出セシモノナルガ其ハ實ニ跋羅摩那、修多羅、及ビ鳩波尼沙奴中ニ於テ完成シタル婆羅門教ニ反對シテ現出シタルモノナリ而シテ吾人ハ既ニ「リツク」韋陀ヲ以テ印度人生活ノ一ツノ特異ナル時代ヲ代表セルモノトシ即チ「リツク」韋陀時代ヲ以テ印度人生活ノ第一時代トシ次ニ三韋陀ノ時代其ノ次ニ跋羅摩那ノ時代又其ノ次ニ修多羅ノ時代更ニ其ノ次ニ鳩波尼沙奴ノ時代來レリトシ又其等ノ書ハ各々思想

并ニ宗教的生活文學的及ビ言語的發達ノ各異時代ヲ表セルモノトセリ然ラバ今此等ノ進歩ノ各段(各時代)ヲ以テ二百年ツ、經過セシモノトスルモ「リツク」韋陀ヨリ佛教ニ至ル間ニハ一千年ヲ要ス而シテ佛教ハ紀元前四百五十年頃ニ發生シタルモノナレバ之レヲ合セバ基督降生ノ年ニ至ルマデ殆ソド千四百五十年ヲ經タル筈ナリ即チ今日ニ至ルマデニハ三千三百四十二年間ヲ經過シタル筈ナリ然リ而シテ此ハ余ノ學ビタル處ニテハ印度及ビ歐洲ニアル最モ博學ナル梵學者連ノ殆ソド一般ニ歸着スル處ノ斷定ナルガ如シ

今其ノ主ナルモノヲ左ニ擧グベシ
マクス、ミユラー氏ハ紀元前千五百年頃トスマクス、ミユラー氏ハ現今唯一ノ最大梵學者ニハ非ザレド氏ハ又人類ノ歷史上總テ此カル事件ノ年代ヲ定ムルニ於テハ即チ一人ノ疑ヲ容ル、モノナキ様之レヲ證明スルニ十分ナル一ツノ基礎ナキ事件ノ年代ヲ定ムルニ於テ甚ダ注意深ク取扱フ人ナリ殊ニ韋陀文學ニ付テハ其ノ功勞總テノ學者ニ超出セリ實ニロート氏ノ如キモ氏ニハ及バザルナリ

クレーキ博士ハ紀元前二千年頃ヨリ一千五百年頃ニ至ル間トス氏又有名ナル大韋陀學者ナリ

ハンク氏ハ紀元前二千四百年頃ヨリ一千五百年頃ニ至ル間トス

ホイートニー博士ハ紀元前二千年頃ヨリ一千五百年頃ニ至ル間トス氏ハエール大學ノ講師ニシテ

米國第一ノ博言學者ナリ

コロンブルーク氏ハ紀元前二千年頃ヨリ一千年頃ニ至ル間トス

ショオンス氏ハコロンブルークニ同ク氏ハ近世梵語學ノ祖ト稱セラル、人ナリ

今右ニ列擧セルモノノ中其ノ極端ナルヲ避ク其中ヲ取ラバ千五百年ハ最也之レニ近接スルガ如シ然リ而シテ此ハ實ニイスラエル人民ノ移住時代ニシテ彼等ガシナイノ廣原ニ漂泊セシ時代ナリ但シ此等ノ二事件(即チカナソノ方ヘ猶太人ノ漂泊セシトカンヂス河畔ヘアリアン人ノ漂泊セシトトノ二事件)ノ同時ニ起リシコトハ甚ダ奇妙ナル事實ニシテ又宗教哲學ニ關シテハ大ナル道德的教訓トモナルモノナリ而シテ事ノ詳細ハ後猶太教ノ章ニ至リテ陳述シ此等二人種ノ歴史間ノ差違殊ニ其ノ宗教史間ノ差違ニ付テ諸君ノ注意ヲ促スベシ

吾輩若シ「リッヅ」章陀ノ年代ヲ此ク上古ニ置カンカ「如何ニシテ其ノ頌歌ハ今日マデ否ナ寧ロ書法發明ノ日マデ保存セラレシカ」ト云フ問題ハ必ズ起ルベシ抑々印度ノ書法ハシリアヨリ導カレタルモノナルコトハ今日明カニ證明セラレタル事ニシテ實ニ今日スラ印度ノ文學ハ著シクヘブリユ一文學ニ類似スル程ナリ然リ而シテ今日迄印度ニ於テ發見セラレタル最古ノ書法ノ代表者ハ大低紀元前二百五十年頃ニ記サレタルモノナルガ然レバ如何ニシテ其等ノ頌歌ハ其時代マデ少クモ千三四百年間保存セラレタルヤト云フニ余輩ノ現今學ヲ處ニヨレバ口碑ニヨリテ傳エラレタルガ如シ詳言セバ僧侶ハ心ニヨリテ之ヲ學ビ以テ今日ニ傳ヘタルガ如シ實ニ今日スラ印度人ニハ書ヲ要セス只心ニヨリテ全ク章陀ヲ誦讀シ得ルモノ多シ勿論其ノ意義ニ至リテハ章陀ノ古語ハ今日既ニ死語トナルヲ以テ之ヲ了解スルモノ甚ダ少ナカラシガ其ニ拘ラズ兎ニ角ク此クナスハ彼等ノ宗教的義務也サレバ彼等ハ甚ダ嚴正ニ之ヲ爲セリ但シ印度人ハ總テ宗教的儀式ヲ執行スルニ於テ甚ダ嚴密且ツ嚴正ナルモノナレバ此ノ義務(章陀ノ誦讀)ヲモ亦甚ダ嚴密ニ爲スナリ然リ而シテ彼等ハ如何ニシテ此ク廣大ナル煩ハシキ課業ヲナシ得ルヤト問フニ余ハ今之ヲ説明センガ爲メニ

博學ナル印度人バンヂト氏ガマクス、ミユラ博士ニ送レル書中此ヲ爲ス方法ヲ記セル一部分ヲ轉載スベシ

「リッヅ」章陀ノ學生ハ若シ英敏にして能ク勉強仕る者ハ有之候ハ左ノ十書を學ぶには八年を要することに御座候

- (一)「リッヅ」章陀ノ頌歌
- (二)跋羅摩那
- (三)修多羅
- (四)「カルバ」即チ家禮ノ法則
- (五)「シクサ」即チ發音法
- (六)「ヨチサ」即チ天文學
- (七)「ヴァイアカラナ」即チ文典
- (八)「ニルリタ」即チ正字學
- (九)「チヤンダス」即チ詩句

學生は祭日を省きて八年間毎日勉強仕る事にて御座候全體太陰曆にては一年に三百六十日有之候は、八年間にて都合二千八百八十日有之次第なれど其中祭日三百八十四日を休業仕れば正味勉強仕る日數は二千四百九十六日に御座候

併て右の十書はあらかた計算仕りて各々平均二万九千五百輪盧迦宛有之候は、「リッヅ」章陀

の學生は平均一日に十二輪盧迦程宛學ぶべき都合に相成り居り候但し一輪盧迦は三十二綴字に御坐候

サント此ハ既ニ頌歌ノ編集サンタル上ノ事ナリ其ノ未ダ編集サンザル以前ニアリテハ其等ノ頌歌ハ諸部族間ニ散在シ寧ロ口傳トシテ保存セラレタルモノナラザル可カラズ今ヤ余ハ本章ヲ終ルニ當テ「リツク」章陀ノ今日ノ状態ニ付テ一言センニ其ハ今日ノ状態ニアリテハ決シテ消失スルナカルベク常ニホマールノ詩及ヒ其他古ノ詩人ノ詩ト並立シテ原始ノ時代ニ於ケル人類ノ宗教的意識ヲ説明スルニ於テ甚ダ緊要ナルモノナルベシ而シテ此カル貴重ナル寶ヲ發見セルコトニ付テハ吾人常ニマクス、ミニウラ一氏ノ勞ヲ謝セザルベカラズ氏ハ其ノ盛カリノ十六ヶ年ヲ全ク其等ノ頌歌ヲ出版スル爲メニ費ヒヤシタリシ實ニ氏ニ謝セザルベカラザルハ管ニ婆羅門教徒ノミナラズ總テノ梵語學者モ否ナ總テノ人類モ亦然ル可キナリ

第八章 「リツク」章陀ノ神

前章ニ於テ記述セル處ニヨリテモ決シテ吾人ハ章陀中ニ完全ナル修行條規明亮ナル信仰箇條十分發達シタル敎訓敎則儀式禮典等ヲ發見センコトヲ希望スル能ハズ更ニ詳言セバ吾人ハ章陀中ニ完全ナル宗教的系統ヲ發見スル能ハザルニ付テハ左ノ理由アリ

- (一) 章陀ハ異ナリタル部族ノ異ナリタル詩人ニヨリテ異ナリタル場處異ナリタル時代ニ於テ作ラレタル詩歌ヲ編集セシモノナルコト
- (二) 其等ノ詩歌ハ詩人ノ個人的感想ニ應ヂテ作ラレタルモノニシテ詩人ハ之レヲ以テ宗教的成文律トナサントセシコト非ザルコト
- (三) 其等ノ詩歌ノ印度宗教全系中ニアリテ達シタル且ツ尙ホ保存スル地位ハ後世種々ノ議論ヲ經テ達シタルモノニテ始メヨリ其ノ地位ヲ占メタルモノニ非ルコト
- (四) 更ニ其等ノ詩歌ヲ編集セシ人々トテ之レヲ以テ宗教的律法トナサント企テタルニ非ザリシコト

今(四)ノ理由ニ付テ少々辨センニ抑々モ章陀ノ編者ハ章陀ヲ以テ宗教的書類トナサンガ爲メニ編集シタルニ非ザルハ其中ニ或ル滑稽詩狂歌ノ如キモノ、嵌入セラレタルニヨリテモ幾分か知ラレ得ルナリ何ントナレバ吾人ノ宗教的意識ハ靈ナル事柄ト此カル物トヲ混淆スルヲ許サズンベナリ今此ノ滑稽詩ノ一例ヲ左ニ示サン

蛙はひねるす、静かに臥しぬ、誓願こめたる信徒(婆羅門徒)の様に、されど今、バルシャヤニア

神に、呼起されて、諸聲高く、叫ぶなり、

天より降る、雨水の、皺皮作る于池の、内におはする、蛙どんの上に、さつとかゝるや、直ぐ聞々と、聲喧しく、歌ふるは、子牛呼ぶなる、親牛の、牟を吼ゆる、如くなり、

五月雨、時の、初雨が、渴に焦され露に、暮る蛙どんの、頭の上に、沛然落る、其時に、互に禮を、歸しつゝ、鳴いて、歌ふて、いと騒げるは、親を祝く、息子の様に、御目出度やと、云ふならん、

雨はふるく、甘露ふる、抱ひて祝ふて、さて喜で、歌ふ其内、身はびしよ濡れに、なるはうれしか、蛙どんは、跳んで、上て、亦跳びおりにて、青ひ御方も、亦斑ある、どんな御方も、聲合さるゝ、

全躰詩歌ハ常ニ精神ヲ高潔ニシ靈ナル感化ヲ及スノ官能ヲ有スルモノナレバ惟フに詩篇ノヘブリ
ユ一基督教中ニ置カル、ガ如ク「リツク」韋陀ヲ印度宗教ノ全系統ニ置クハ敢テ失當ノ事ニ非ル可
シケトキ博士曰ク

頌歌ノ最多數ハ別々ニ各神ノ祐助ヲ呼ブ希願ナリ又神トシテ彼ヲ尊崇スル讚稱ナリ而シテ彼
等ノ眞髓ハ心情ノ簡單ナル併出ナリ永遠不滅ナル者ニ捧ゲタル祈ナリ謹テ捧ゲタル供物ヲ快
ヨク受ケ賜ハンコトヲ諸神ニ求ムル希願ナリ

然リト雖モ其等ノ頌歌ヲ此ク見做スコトハ直グ變ゼラレタリキ而シテ其等ノ頌歌ハ直接ニ神ニ歸セラ

レ又其ノ本始ハ人類ノ歴史前ニ置レタリキ然リ而シテ此ノ思想ハ以後又稍々變テ遂ニ人々ハ左ノ
如ク考フルニ至リ、又即チ韋陀(智慧)ハリシ(智者)ト稱セラレタル聖人ニ内部的ニ賦與セラレタル
モノニシテ又彼等ヨリ娑羅門ト稱セラル、彼等ノ徒弟ニ口授セラレタルモノナリト「但韋陀ハ現
今如何ナル形態ニテ殘留スルモ其ヲ研討スルハ自然教及天啓教ニ付テ多クノ智識ヲ得ルタメニ必
要ナル且ツ利益アルモノナルハ敢テ疑ハザル處ナリサレド余輩ハマクス、ミユラト講師及ビ其他
多クノ梵學者ノ與フルガ如キ必要ナル地位ヲ之レニ與フル能ハズシカシ免ニ角モ其年代ノ古キト
ト其ノ妄想的自然崇拜ニ富豐ナルトトハ其チノ一種特殊ナル且ツ教訓的ナルモノトナスナリ
諸古代ノ宗教ヲ研究スルニ當テ先ツ第一ニ起ル可キ問題ハ其ハ多神教ナルカ又ハ一神教ナルカト
云問題ナリサレバ今ヤ余輩ガ韋陀教ヲ研究セントスルニ當テモ亦先ツ此問題ニ答エザル可カラズ
而シテ余ハ此レニ答フルニ付テハ歐洲及ビ印度ノ最モ博涉精通ナル梵學者ノ探究セシ處ノモノニ
從テ可シ抑々モ韋陀教ハ今日吾人ガ基督教及ビ天啓教ノ光ノ下ニアリテ了解スルガ如キ上帝純一
ノ觀念ヲ抱持スル一神教的宗教ナリトハ決シテ云フ可カラザルノ言ナリ何トナレバヘブリユ一基
督教ハ先天的ナル、神聖ナル、自存的元精、世界ノ造化主、及ビ支配者ノ上ニ建設セラレタルモ
ノニシテ而シテ此カル觀念ハ全ク韋陀頌歌ノ含有セザル處ノモノナレバナリサレド又多クノ頌歌
中ニハ一神教的ニ響ク聲ナキニモアラズ左ノ如キモノハ其ノ一例ナリ

唯一ナルモノ其チ聖人ハ種々ニ名クタリ——彼等は其をアグニト呼ビヤマと呼ビ又マタリ
スヴァントヨベリ

又或ル處ニハ太初ニ現レシヒランヤガルベ神ニ付テ左ノ如ク歌ヘルモノモアリ

さがしき歌人は己が言葉によりて様々に美はしき翼以て唯一の神を表せり

又他ノ處ニハ同詩人ノ同シヒラシヤガルバ神ニ付テ左ノ如ク歌ヘルモノモアリ

ヒラシヤガルバ、此の神は、あらゆる神の、上にます、獨りの、御神に、おわすなり、

又マクスミユクロー氏ノ云ヘルガ如ク

舊約全書中ノ如何ナル言モ勝ル能ハザル上帝純一ニ付テノ斷言「アリサンド」同氏又曰ク

——僅少ナル此カル語句ノ傍ニ多クノ神ヲ讚美シ之レニ祈禱スル幾千ノ語句アリ又其等ノ神

ノ數スラ或ル時ハ十一ノ三倍即チ三十三トセラル而シテ或ル詩人ハ之レヲ配付シテ空ニ十一

神陸ニ十一神水ニ十一神アットス——此處ニ水ト云ヘルハ大氣及ヒ雲ノ水ノ義ナリ

多神ノ觀念ハ管ニ茲ニ止マラテ右ノ三十三神ハ又各妻子養族ヲ有セリ更ニ其等ノ上ニアクニソマ

マルツアスニス等ノ主神及ヒ河神海神等アリテ實ニ或ル詩人ハ神數ハ三千三百三十九ニ達セリト

云ヘル程ナリ

故ニ——マクス、ミユクロー講師曰ク——リツク韋陀ノ宗教ヲ總稱スル一名稱ヲ欲セバ先ツ多

神教ナル語ハ最モ適當ナルガ如シサレド多神教ナル語ハ吾輩ニアリテハ韋陀教ヲ指スニ甚ダ

不當ナル一種ノ意味ヲ有セリ

多神教ニ付テ吾人ノ有スル觀念ハ主トシテギリシヤローマヨリ來レル者ナルヲ以テ吾人ハ常

ニ此語ニヨリテ、力及ヒ位ニ於テ各異ナル、且ツ總テシユニス或ハヂユビターノ如キ無上ノ神

ニ附屬スル、諸神ノ多少組織セラレタル或ル系統ヲ了解スルナリ

然ルニ韋陀ニアリテハ各派ニヨリテ無上トシテ尊拜セラレタル多クノ神ハ並立シテ高下ノ差

ナク一トシテ常ニ第一ノ地位ヲ占ムルモノナク又最下等ノ地位ヲ占ムルモノモナシ又明ニ下
等ニシテ其性質有有限ナル諸神スラ屢々一心之レニ奉仕スル詩人ニヨリテハ總テノ神ノ上ニ
位スル最上無上ノモノトセラレタリキ

故ニマクスミユクロー氏ハ之レニ與フニ「かせのしーずむ」教（即一々優劣ツクズニ諸神ヲ崇拜スル
宗教）或ハ「のしーずむ」教（即獨立ナル諸神ヲ崇拜スル宗教）ノ名ヲ以テス然リト雖モ吾輩ハ此ノ
名稱ニ從ヒ之レニ満足スル能ハズ否ナ氏自カラスラ之レニ満足スル能ザルガ如シ何シトナレバ氏
ハ其後直ク又左ノ如ク云ヒタレバナリ

斯種ノ研討ニアリテハ吾人ハ十分學語ニ注意セザル可カラズ研究スル處ノモノニ學語ヲ與ヘ
ザル可カラザルハ必然回避ノ事ナレバサレド學語ハ殆ント常ニ吾人ヲ誤解ニ導クモノナリ

然リ實ニ然リ此等ノ二名稱ヲ以テ若シ韋陀鬼神論ノ全系ニ與ヘンカ是レ大ニ吾人ヲシテ韋陀教ヲ
誤解スルニ至ラシムルモノナリ成程韋陀中ニハマクスミユクロー氏ノ「のしーずむ」教寧ロ一神教
ト稱セル處ノモノヲ證スルガ如キ語句ナキニアラズサレド是レ只僅少ノミ吾人ハ決シテ此カル僅
少ノ語句ヲ擧ゲテ以テ韋陀神學ノ全體ヲ代表スルモノトナス能ハズ然ルニ若シ此クナサンカ即チ
韋陀中ニアル僅少ノ語句ニ依リテ韋陀ノ教（寧ロ言）ヨリ一種ノ系統ヲ構成センカ余輩ハ實ニ韋陀
中ニ於テ多クノ系統ノ表現スルヲ見ルナリ今茲ニ一例ヲ擧ゲン但シ左ニ掲グル一頌歌ハ説明者ノ
見様ニヨリテ之レヨリ一神教ナリトモ汎神教ナリトモ孰レナリモ構成シ得ルナリ

譯者云、左ノ頌歌モ亦前諸頌歌ノ如ク詩篇風或ハ讚美歌風ニ譯スル計畫ナリシガ期日切
迫シテ如何モ可カラズ茲ニ中江先生ノ譯ヲカリテ以テ責ヲ塞ク

神ノ未タ其威徳ヲ外ニ現セザルヤ世界一物有ルヲ無シ有モ無ク非有モ無ク空氣モ無ク天街モ無シ是時ニ當リ斯宇宙即チ今日庶物ヲ蔽容スル所ノ大袋ハ果シテ何ノ狀ヲ爲セシ耶海水ノ浸々タルハ果シテ何ノ處ニ蓄ヘシ耶空氣ノ蒼々タルハ何ノ處ニ藏メシ耶既ニ生有ルヲ無ク亦死有ルヲ無ク斯ノ晝ヲ照ラシ夜ヲ燭ラス所ノ光輝有ルヲ無シ獨リ神斯ノ冲漠無朕ノ中ニ在リ吸嘘スルヲ無クシテ深ク自ラ廣大ノ智慧ノ中ニ潛藏シ己レヲ除ク外一モ視聽スル所無シ暗上ニ暗ヲ積ミ水モ亦其光澤ヲ見ハスヲ無シ然レモ神ノ生氣ハ此大空虛ノ中ニ充チテ獨存セリ既ニシテ活潑ノ智慧ヲ奮フテ斯ニ以テ此世界庶物ヲ釀出セリ然レモ誰カ詳ニ之ヲ知ル者ソ之ヲ知ルト雖モ誰カ明ニ之ヲ告クルコトヲ得ル者ソ凡ソ此萬類何レノ處ヨリ來レル乎群神ノ齊聖ナルモ彼ノ廣大無邊ノ一神ノ造ル所ナリ神唯之ヲ造ルコトヲ欲ス故ニ遂ニ之ヲ造レリ然レモ斯ノ廣大無邊ノ一神ハ果シテ何レノ處ヨリ來レル乎斯ノ森羅萬象ハ何レノ處ヨリ出テタル誰カ之ヲ知ル乎斯ノ萬類ハ果シテ獨力ヲ以テ存スル乎天ノ高キニ居テ眼ヲ其造ル所ノ世界ニ放チ嗒然トシテ獨存スル者獨リ其然ルカ然ラサルカヲ知ル神ニ非スハ孰レカ能ク是ニ與ラン

今述ベシ如ク此ク様々ニ彩色セラレタル頌歌中ニハ吾人ハ實ニ互ニ反對シ互ニ撞着スル種々ナル系統ノ容色ヲ發見スルヲ得即チ茲ニ吾人ハスピノザノ汎神教ヲ發見シ又ライプニツツノ元子論ヒニ一ムノ懷疑說佛敎無神說ハ一バートスベンサーノ唯物論或ハ合理的唯一神敎或ハ其ノ時代ノ純粹ナル多神敎等ヲ發見スルナリサレド吾人ハ此ノ一詩ヲトリテ以テ直ニ其ヨリ神學或ハ哲學ノ何タル系統ヲモ構成スル能ハズ

余輩ハ又マクスミユラーノ說ノ外ニモ一ニール、ウイリアム氏ノ說ヲモ稽查ス可シ氏ハ印度敎ト題スル有値ナル一冊子中ニ左ノ如ク云ヘリ

彼等ハ自然力ヲ崇拜シタリキ而シテ其等ノ自然力タル初代ニアリテハ總テノ國民——若シ只自然ノ光ノミニ導カルレハ——ノ均シク本能的ニ其ノ前ニ頭ヲ下ゲ又較々進歩開化セル國民スラタトヒ崇拜スルマデニハ至ラザルモ常ニ畏敬尊崇シテ其ノ前ニ腰ヲ屈セザルヲ得サル處ノモノナリキ一言ニ云ハ、彼等ノ宗敎ハ自然崇拜敎ト稱セラル、處ノモノナリ

蓋シ印度ニ於テ自然ハ他國ニ無比ナル現象ヲ表顯スルコトハ疑テ容レズ而シテ此ノ無比ナル現象例ハハ酷烈ナル熱氣鬱蒼タル草木慄慄ナル動物其ノ他風雨等ノ如キモノハ總テ相結合シテ以テ遊牧人種ノ心情ニ畏敬ト恐怖ヲ惹起シタリシナラシ是今日ヨリ見レバ甚ダ解シ厄キモノ、様ナレ併シ吾人ハ今日ノ心ヲ以テ一ノ菩提ナシニ日ヨリ日ニ一所ヨリ他所ニ漂泊シ全ク風雨或ハ寒熱ノ恩惠ニ依頼スル野蠻人ノ情感ヲ推測ス可ラズ全跡人類ハ皆ナ此ル狀態ヨリ進化ト經驗トニヨリテ漸々勇氣ト勢力ヲ得遂ニ萬物ノ靈トナルニ至レル者ナリ即地球上唯一ノ君主トナルニ至レル者也其生活ノ初代ニ於テ己ヲ殘殺セントセシ總テノ猛獸毒蛇ヲモ漸々撲滅シ遂ニ猛惡ナル獅及ヒ其他最初ニ拒抵セシ多クノ慄慄ナル動物ヲ殆ド跡ヲ絶ツニ至ラシムル者ナリ又人類ハ大ニ自然ノ諸勢力トモ争ヒテ貴重ナル成功ヲ得タリシ乃チ科學ニ導カレテ多クノ新發明ヲナシ多クノ自然ノ新秘密ヲ闡明シ以テ大ニ進歩セリ彼ハ光ヲ制シ蒸氣ヲ利用シ列祖ノ知ラザリシ或ハ惡靈ト思惟セシ善真ナル多クノ原因ヲ發見シ更ニ一定ノ天則ニ從ヒテ之ヲ説明セリ實ニ近頃續々トシテ現ハル、新發見新發明ハ或ル度マデ人類ヲシテ自然ノ上ニ立チ之ヲ制スルニ至ラシメ又超自然的惡魔力

ノ恐怖ヲ掃去スルニ至ラシメタリト云フ可シ然リ而シテ今陳述セル夫等ノ事ハ三四千年モ以前ニ
アリシ原始ノ人民ヲ考究スルニ於テ常ニ記憶シ置カザル可カラザル者ナリ
サレド尙ホ吾輩ハ上説即チウイリアム氏ノ説ニ付テ道理上問ハント欲スル處アリ夫レ自然崇拜教
ナル語ハ自然ノ崇拜ヲ意味スルナランカ吾輩ハ先ツ左ノ問ヲ發セザルヲ得ズ

韋陀時代ノアリアン人ハ其等ノ可視的要素及ヒ天賦其物ヲ崇拜セシガ若シ然ラバ彼等ハ如何
程マテ其等ノ元素或ハ天賦ヲ神祇トシテ崇拜センヤ又如何程マテ不可視的ナル諸神祇ノ代表
者トシテ崇拜セシヤ

抑々梵語ニ於テ阿耨尼ト云ヘハ火ヲ意味シマルツト云ヘハ降雨ヲ意味スルコトハ毫モ疑ヲ容レザル
處ナルガサレド古代ノアリアン人ハ暖室爐ノ内ニ赫々タル火炎、食物ヲ調理スル燃火、手ヲ暖ム
ル灰火等ノ如キ者ヲ眞神トシ又總テノ危難ヨリ彼レ及ビ彼ノ家蓄ヲ保護スルモノトシテ崇拜セシ
ヤニ付テハ疑ナキ能ハズ夫レ火ハ今日スラ尙ホ古代拜火宗ノ殘徒ノ崇拜スル處ナレ併シ其ハ天
地ヲ創造セル眞神トシテ崇拜セラル、ニアラテ只宇宙ヲ管理スル不可視的不可思議的ナル勢力ニ
對シテ最良ナル符號トシテ崇拜セラル、ナリ而テ神ノ符號トシテハ火ハ最モ適當ナル者ナリ何者モ之
レニ勝ル者ハナシ吾人ハ聖書ニ於テモ神ヲ表スニ「燬盡ス火」ナル語ノ用ヒラル、ヲ見ル蓋シ火ハ
可視的全萬有中最モ奇異ナル者ニシテ吾人ハ之ヲ見又其ノ働キノ結果ヲ感得レハ決シテ之ヲ捕
フルコト觸ル、コト握ルコト能ハズ若シ之ニ觸ルカ其ハ忽チニ吾人ノ觸レタル局部ヲ燒キ又自カラハ消
滅スルナリ更ニ又火ハ光ノ唯一原因ナリ而シテ神ハ光ナリトハ宗教上常ニ用ユル言ナリ勿論神ハ
光ナリト云フ中ニハ實ニ物質的ノ意味ノミナラズ又道德的ノ意味ヲモ合ム者ナリト雖モ凡ニ角光

ハ總テノ物ニ勝リテ人類ニ必要ナルモノニシテ實ニ其ノ燦然タル容態ハ吾人ノ心情ヲシテ和樂歡
喜ニ充タシムルモノナリサレバ吾人ハ吾人ノ祖先ガ此カル奇異ナル緊要ナル元素ヲ大ニ尊敬セシ
コト否ナ崇拜スラナセシコト見モ敢テ驚クニ及バヌ事ナリ茲ニ余ハアグニ神ニ供獻スル間ニ歌ハル
、短小ナル讚美歌ヲ示ス可シ

いと美しき供物
蘇麻酒召さんぞが爲めに
ひたに吾儕は願ふなり
なれの心にかないなば
こゝにきませやアグニ神

きませや此處に アグニ神
マルトト神と 諸共に
いともまされるアグニ神 けにや如何なる神とて

けにや如何なる人として も なれにまざるゝものぞあき
ひたに我等は願ふなり
きませや此處に アグニ神

マルトト神と 諸共に
強さは強し荒神達 まされるものはあらくなくに
尙も恐ろし聲高く 歌てふものを吼るかや

ひたに吾儕は願ふなり
きませや此處に アグニ神

マルトト神と 諸共に」
 天の御國に神として いとうるはしき蒼穹の
 光の内に神として いはれ賜ふ荒神達
 ひたに吾儕は願ふなり

きませや此處に アグニ神
 マルトト神と 諸共に」
 東の天に紅根さす 朝のたむけなさんどて
 いと美しきソマの酒 吾は御神にそゝぐなり
 ひたに吾儕は願ふなり

きませや此處に アグニ神
 マルトト神と 諸共に

吾輩ハ右ノ頌歌ニヨリテハ古代ノアリアン人ガ其ノ良心ニ表セシアグニ神トハ果シテ如何ナル性質ノモノナルヤ十分ニ確定スル能ハザルコトヲ告白セザル可カラズサレド愚按スルニ其等ノ種々ノ語句或ハ色々ノ暗號ノ如キモノ、裏面ニ於テ彼等ハ其ノ思想ヲ永久ナル實在物ニ向ケタルガ如シ蓋シ無限實在ハ吾人ノ思想ヲ其ニ向クル時何時ニテモ存セザル時ナク吾人ノ思想ヲ其レニ向クル處何處ニテモ在ラザル處ナキモノニシテ人類ハ其ノ生活ノ如何ナル状態ニアルモ常ニ之レニ向フモノナンバナリ實ニアリアン人種ハ甚ダ自然崇拜ヲ好ミシコトハ毫モ疑ヲ容ル可キ處ニ非サレド併シ此ノ自然崇拜ハ常ニ彼等ヲ導イテ愈々高尚ナル思想ニ進マシメシモノナリサレバ吾輩ハ茲ニ於

テモ又埃及ノ古宗教中ニ潜伏シ陰ニ表現セル處ノモノ、均シク表現スルヲ見ル併シ其ノ現出スル容態ニ至リテハ固ヨリ同一ニアラズ埃及ニアリテハ動物崇拜教トシテ現レ印度ニアリテハ自然崇拜教トシテ表シタル也即チ各々其環象ト境遇ニ制セラレテ其ノ邦國ニ適スル概念ニテ現レタル也サレド其等ノ概念ノ根本ニ於テハ毫モ異ナラズ否ナ互ニ相一致スルナリ而シテ是レ只此ノ二宗教ニ於テノミナラズ其他普天ノ下アラユル宗教ニ於テモ亦然リ詳言セバ多クノ宗教ハ腐敗シタル教義ト迷信ノ疊層中ニ埋没セリト雖ヒサレド靈敏ナル批評的ノ眼光ヲ備ヘタル者ハ直ニ其ノ中ヨリ宗教的情操ノ實體ヲ摘出シ明カニ他ノ廢物ヨリ辨別シ得ルナリ」又埃及ノ宗教及ヒ韋陀ノ宗教ハ共ニ汎神教ナリト稱セラル、ヲ得レド併シ此ノ學語ノ意味ノ取リ様ニヨルナリ全跡此ノ汎神教ナル語ハ不定意ノ語ニシテ中ニ種々ノ異ナリタル教義ヲ含有シ時ニ殆ンド相撞着スル教義ヲモ包括スルモノナレバ意味ノ定メ様ニヨリテ此等ノ二宗教モ或ハ汎神教ト稱スルヲ得レバ又汎神教ニ非ズトモ云ヒ得ルナリ今若シ汎神教ヲ以テ總テ可視的庶物ハ神或ハ神ノ本質ノ一部分ナリト主張スルモノトセンカ此カル概念ハ全ク韋陀ノ詩人ノ抱持セザリシ處ニシテ韋陀中ノ一節モ此カル解釋ヲ許スモノナシサレド若シ之レヲ以テ單ニ神力ハ總テ物質的現象中ニ自顯セリト論スルモノトセバ印度ノ宗教ハ其ノ基礎ヨリ汎神教的ナリト稱セラル、ヲ得ルコト實ニパース博士ガ其ノ大著「印度ノ宗教」中ニ甚ダ巧ニ記述セルガ如シ
 今ヤ余輩ハ韋陀ノ神學の基礎ニ關スル緒論トシテハ十分以上ニ陳述シタルヲ以テ是レヨリ若々頌歌中ニ發現セル神祇ノ階級ニ論及スベシ
 諸アリアンの神祇ノ階級ニ於テ第一位ヲ占ムルモノヲ因奴羅阿耆尼及ヒ蘇利耶ノ三神ナリトス而

シテ先ツ因奴羅ヨリ論ヲ始ム可シ
 因奴羅 此ノ語ノ意義ハ漠然トシテ未ダ確定サレズザレド大抵梵語學者ハ「インド」(雨フル)ナル
 語ヨリ來レルモノトス此神ハ最大ナル天神ニシテ頌歌ノ最モ多クハ之ニ捧グラレタルモノナリ其
 ノ主ナル特性ハ降雨ヲ妨グ其ノ他多クノ痛苦ヲ人類ニ與フル惡魔邪神ニ反對シ彼等ト爭鬪スルコ
 ナリ而シテ彼ハ彼等ト爭鬪シテ遂ニ彼等ヲ征服スルナリ抑々此等ノ爭鬪タル處ニヨレハ此ノ
 國空中ノ變象及ヒ其他ノ現象ヨリシテ容易ニ説明サル、ヲ得ルモノナリト吾輩ガ日本ニアリテハ
 氣候上ノ現象ヨリシテ甚ダ容易ク其等ノ詩歌ヲ了解シ得ルナリ惟フニ日本又ハ印度ノ如キ氣候ノ
 變遷常ニ定リナキ國土ニアリテハ此カル鬼神論ハ甚ダ容易ニ發達スルヲ得可シ
 余ハ尙ホ精細ニ此ノ點ノ研究ニ進マンニ因奴羅ハ只人類ヲ惠ム或ル空中ノ要素ヲ意味スルノミノ
 モノトナス能ハズ又シ及ビチユスナ等ノ惡神モ只人類ニ不利益ナル影響ヲ及ス暴風雨或ハ寒氣
 等ノ如キ氣候上ノ要素ヲ意味スルノミノモノト爲ス能ハズ實ニ崇拜者ハ其等ノ美ハシキ神仙傳ニ
 ヲリテ空中ニ起ル爭鬪ニ類スル或ル爭鬪ノ又靈界ニ起ルモノアルヲ悟レルナリ夫レヨリ因奴羅ハ
 遂ニイト優レタル戰爭ノ神トナレリ總テ他ノ諸神ハ年老ヒ衰弱シテ能ク惡魔ト爭鬪スル能ハザル
 ニ至ルルハ總テ其ノ爭鬪ヲ因奴羅ニ讓ルト云フ而シテ因奴羅神ノ惡魔ト爭鬪スルヤ始メニハ其ノ
 險ヲ傷ケラルレ直ニ全ク彼等ヲ征服スルナリ故ニ總テノ神ハ漸々彼ノ從者臣下トシテ之ニ奉
 仕スルニ至レリ此ハ左ノ頌歌ニヨリテ明カナリ

彼の進む間には彼のまはり^{カマキ}に立てるものどもは美はしき紅^{ベニ}の駒に鞍^{ウマ}おけり此くしていとま
 ばゆき光は天に耀く

彼等は強^{ツヨク}たくま^{たくま}しき勇氣凛々たる二匹の栗色の馬を彼の御車の兩側に着けり

光あらしりし處に光あらしめ^{カマキ}定形あらしりし處に定形あらしめし汝は曉と諸共に生れぬ

ア、インドラ神汝は金鐵の如き磐^{イソ}すら破る豪傑なるマルツ神と諸共に其の隱處に於てすら
 美しき牝牛を見出しぬ

インドラ神の信任する神の群、高潔無垢なる神達と共に供獻者は高く叫ぶ

ア、旅人よ其處より此處にきませや、天の光より下に、謠ひ人は總てそを望むなり

因奴羅神ハ又屢々人々ノ犧牲ヲ供シテ福利ヲ賜ヒ災禍ヲ除カンコトヲ祈リシ神ナリ然リ而シテ此ノ
 神ノ漸々諸人ノ尊敬ヲ増シ遂ニハアリアン人ノ國神トナルマテ具進セシハ實ニ此力即チ崇拜者ヲ
 惠ミ福利ヲ與フルノカアルヲ以テナリ此クテ吾人ハアリアン人ハ自己ノ崇拜スル聖ナル神ノ價値
 スラ功利的ニ判斷スルヲ見ル實ニ萬事萬端總テ皆利己的功利的ノ見點ヨリ判斷スルハアリアン人
 種ノ主要ノ特性ナリト云フ可シ

阿耨尼 阿耨尼ニ付テハ余輩既ニ少々記述シタリシガ尙ホ此ニ詳シク論ゼン此ノ名稱ノ字義ハラ
 テン語ノ「イグニス」ナル語ニ同ク火ノ意ナリ倍此ノ神ハ大ニ其ノ本來ノ性質ヲ保存セシ神ナリ

彼ハ天ニ住スレモ尙ホ彼ノ地上ニ出現スル時ハ常ニ見ラル、トテ得ル也又彼ノ可視的產出物ハ其數無限ナリ彼ハ諸神ノ中ニテ最初ニ生レシモノナレモ併シ最モ若キモノナリ何ントナレバ毎朝新ニ燃レバナリ彼ハ何處ニテモ異ナルナク同一物トシテ顯レリ彼ハ生レナガラ地上并ニ天上ニ於ケル僧侶ナリ又此ノ神ハ因奴羅ニ比スレバ甚ダ弱クシテ梵語鬼神論ニ於テハアマリ多ク活動セズ而シテ常ニ蘇麻酒即チ前ニ陳述シタル麻酔液ト結合セリ」抑々モ蘇麻酒ハソマト云フ草ノ根ヨリ造ラレタルモノナリ而シテ其ヲ製スル方法ハ左ノ如シ先ツ月夜其等ノ草根ヲ堀リ聚メ之ヲウチテ其ノ液ヲ取リ牛乳ト調合シテ後數日間醱酵セシム是ニ於テ甚ダ強烈ナル麻酔質ノ飲料トナル是レ即チソマ酒ナリ蘇麻酒ハ始メニハ只諸神ニ捧グル飲料トシテ用ヒラレシモノナルガ後其ノ禮拜ハ漸々發達シテ遂ニ第一位ノ神トナルニ至レリ而シテ其ハ常ニ阿耨尼ト結合シテ屢々因奴羅ヨリモ勝レタル位地ヲ占ムルコトアリ又蘇麻ノミニテスラ左ノ如ク呼レタリ「世界ノ王」「天地ノ王」「總テノモノ、勝利者」等ナリ今左ニ蘇麻ニ捧グラレタル一頌歌ヲ揚ケテ以テ彼ノ高等ナル職務ト人事ニ於ケル其ノ影響トヲ示ス可シ

世界の中に永久の光ある處に

其の不滅不死なる世界の中に太陽のある處に

吾れを置け、ア、蘇麻神よ！

ゾアイヴァスヴァマ王の支配する處に

天の秘密所ある處に

其等の大なる水ある處に

其處に吾れを不滅ならしめよ

諸天の第三天に於て生活の自由なる處に

諸世界は耀ける處に

其處に吾れを不滅ならしめよ

志願と欲望ある處に

清き蘇麻酒の盤ある處に

食物と喜悅ある處に

其處に吾れを不滅ならしめよ

幸福と大悅ある處に

歡喜と快樂の住する處に

吾儕の欲望の諸欲望が達せらるゝ處に

其處に吾れを不滅ならしめよ

(リックウ章陀九 百十三)

茲ニ余輩ハ歩ヲ止メ自カラ省問セザルヲ得ズ抑來世ニ付テ、靈魂不滅ニ付テ、此ガ爾高尙ナル觀念

ヲ保テ人間ニシテ、尙ホ能ク草根ヨリ生出スル液汁ノ如キ者ヲ以テ此カル超絶的勢力ノ眞因ト思
考スルヲ得ルヤ、余ハ確乎トシテ「否ナ」ト答ヘンサレド惟フニ己ガ富豊ナル想像觀念ニ大醉シ又
ソマ酒ニ大醉シタル章陀時代ノ詩人ハ萬物ノ無窮ナル原因及ビ不滅ノ靈魂ノ賦與者ヲ讚美スルニ
於テ恐クハソマ酒ヲ以テ代表者トナシタルナラシ然リ而シテ余ノ思惟スル處ニテハ此ク説明スル
バ古代ノノ鬼神論的言語及ビ記號的言語ノ起源ヲ十分考究シ又彼等ノ觀念ヲ了解シ得ル唯一ノ方
法ナルナリ舊約書中ノ詩篇中ニモ亦左ノ如キ詩アリ

烟その鼻よりたち火その口よりいで、やきつくし炭はこれがために燃あがれりエホバは天を
たれて降りたまふ、その足の下はくらきこと甚だしかくてケルブに乗りてとび風のつばさに
て翔り闇をおほひとなし水のくらきとそらの密雲をそのまはりの幕とあしたまへりそのみ
まへの光輝よりくろくもをへて霞ともえたる炭となりきたれりエホバは天に雷鳴をどいろか
せたまへり、至上者のこゑいで、霞ともえたる炭となりきたりエホバ矢をどばせてかれらを
打ちらし敷しげき電光をはなちてかれらをうち取りたまへりエホバよ斯るときになんぢの叱
咤となんぢの鼻のいぶきとによりて水の底みえ地の基あらはれいでたり

(詩篇十八篇八節ヨリ十五節終ル)

現今ニアリテハ吾人ハ神聖ナル働作ニ關シテ此カル語句ヲ用ユル能ハズサレド過ギニシ三千年間
或ハ尙ホ多クノ年前ニハ言語ハ全ク異ナリタル方向ニ發達セシモノナルヲ記憶セザル可カラズ
今日吾人ヲシテ若シ此カル事柄ヲ叙サシメンカ吾人ハ必ズ哲學的ナル深妙ナル語句ヲ用ユルナラ
ンサレド吾人ハ決して祖先ノ人々ガ哲學的學語ノ未ダアラザル前遠キ昔ニ仕用セシ奧妙ナラザル

併シ實ニ生氣アル言語ヲ蔑視ス可カラズ否ナ實ニ今日スヲ人若シ余ニ煩勞ナル模糊タルカント語
ト、幽邃ナル、心志ヲ高尙ナラシムル、且ツ感化的ナル、詩篇或ハ章陀ノ言語ト、ヲ出シテ此ノ二者
ノ中孰レヲ撰取スルヤト問ハンカ余ハ直ニ後者ト答ヘン

倍是レ迄ハ「リツク」章陀中ノ主ナル三神ニ付テ色々論述セルガ今ヨリ再ビアリアンの神統記ノ最
古ノ時代ニ還リテ以テ此ノ人種ノ極初ノ神學的概念ヲ論ズ可シ即チ彼ノ因奴羅ノ如キ阿耨尼ノ如
キ其他ノ諸神ノ如キハ較々後世ノ觀念ノ神トセラレタルモノナレバ余ハ今極初ノ始源ニ遡リテ論
ズ可シ

然リ而シテ余輩ノ先ツ第一ニ遭遇スル神ハディオオスナリ即チ蒼穹ノ意ニシテテギリシヤノサユース
ヲテソノサユエビターニ同ジキモノナリ此ノ神ハ章陀中ニ記サル、事甚ダ稀レニシテ或ル學者ハ章
陀ノ一神トシテ眞ニ占在セシモノナルヤ否ヤヲ疑フ程ナリ而シテ此ノ語ハ後世ノ梵語神學中ニ於
テハ單ニ蒼穹ヲ表ハス女姓名詞トナレリサレド尙ホ余輩ハ屢々プリシウイ(地)ト共ニ祈ラル、ヲ
見ル其一例ヲ擧グレバ

父ナルディオオス(蒼穹)ヨ親切ナル母ナルプリシウイ(地)ヨ兄弟ナルアグニ(火)ヨ汝ウアサス
ヨ汝光リ耀クモノヨ願クハ吾ニ惠ヲ與ヘ賜ヘ

此ノ神ハ又屢々「父」創造者ト呼バル而シテ通例地ト結合セリ然レ此ノ勝ナル地位ハ後因奴
羅ノ爲メニ奪ハレタリサレバディオオスノ祈禱ヲ合ム詩句ハアリアン人種ノ最古ノ宗教的思想ヲ表
セルモノトナサザル可カラズ

此ノ原始ノ神ノ順序ニ於テディオオスノ次ニ來ルモノヲアデイチト稱スル女神ナリトス此ノ神ハ

「無限空間」或ハ「永遠」ニシテ萬神ノ母ナリト思惟セラル、處ノモノナリ此クテバース博士ハ此ノ神ノ觀念ヲ左ノ如ク記セリ

頌歌ハアテチ神ヲ叙サントスル時ハ其ノ力盡キテ遂ニ曖昧不定ニ終ルナリ惟フニ此ノ神ハ普有胚渾即チ萬有ノ本體ト云フ混雜ナル命令的ナル觀念極初ノ表象ナル可シ或ル詩節ニ曰ヘルニハ「カノ女神ハ既ニ生レタル處ノモノ及ビ後ニ生マル、處ノモノナリ」ト又此神ニハ一頌歌モ捧ケラレタルモノアラズト雖モ併シ屢々人間ノ朋友トシテ、國民ノ尊キ在天ノ祐助者トシテヴアルナ及ビミトラニ生命ヲ與フル、萬惠ニ富ミタル施與者トシテ、讚稱セラル、ナリ

又人々ハ此ノ神ニ希願シテ安全ナル保護ヲ受ケ罪惡ノ重荷ヲ取去ラントセリ
アチチノ次ニ來ルモノヲヴアルナトスヴアルナトハ蒼穹ノ意ニシテギリシヤ語ノホラナス(天、蒼穹)ト同意ノモノナリ此ノ神ハアテチヨリ出生スル諸神即チミトラアイヤマン等ノ諸神ノ頭梁神ナリ

ヴアルナハ戰爭ノ神ナル因奴羅ニ比スルモ甚ダ勝レタル平和ノ神ナリサレバ此ノ神ニ捧ケラレタル頌歌ハ總テ甚深ナル罪惡ノ意識及ビ之ヨリ免レントスル苦辛ノ蹤跡ヲ表ス又此ノ神ハ全智ナル創造者トシテ、世界ノ保存者及ビ管理者トシテ、全智ナル善ノ保護者、惡ノ仇報者トシテ、聖ナル、義ナル、尙ホ又愛憐ニ溢レタル神トシテ、叙サレタリ即チヴアルナハ萬物ヲシテ現出セシメタル神ニシテ又其ノ力ヲ以テ大氣ノ宏大甚深ナル二重ノ世界ヲ確立シ更ニ其ノ大智慧大慈悲ヲ以テ此ノ兩世界ヲ充タシ彼ヲ尊カラシムル以所ノモノヲ總テ無常物ノ上ニ賦與スル者ナリトセラレタリザレバ夫レヨリ實ニヴアルナハ最上無上ノ神トナレリ而モ尙ホ其ノ本性即チ人類ヲ憐ミ惠ムノ性質ヲ

失ハザリシ而シテ此ノ神ニ捧ケラレタル頌歌ノ中其最モ緊要ナルモノハ既ニ第一章ニ揚ケタルヲ以テ茲ニハ更ニ他ヲ示スノ必要アラザル可シ要スルニアリアン人種ノ爭鬪の本能性漸ク強ク現ハル、ニ至リテハ常ニ平和ノ神ナルヴアルナハ戰爭ノ神ナル因奴羅ニ其ノ高位ヲ讓ルニ至リシト雖モ尙ホ實ニヴアルナハアリアン人種ノ產出セル諸神ノ中最モ理想的ノ神ナリキサレドアリアン人種ガ其本眞ノ性情ヲ表ハセシ處ハヴアルナニアラデ因奴羅ニアルヲ記憶セザル可カラズ
ヴアルナニ伴隨シテ現ハル、一神アリ名ケテミトラ(日ノ神)ト云フ此ノ神ハヴアルナヨリ劣レル神ニシテ又其レニ捧ケラレタル頌歌モ只一アルノミナリ次ニ余輩ハ更ニ多クノ天神ヲ見ル此等ノ神ハ皆ナ固ト無限ノ神ナルアテチノ腹中ヨリ現出シタルモノニシテ始メ七神ナリシ併シ後増加シテ十二神トナリ更ニ漸々増加シテ無數ニ至リ遂ニ其ヲ崇拜スルノ趣味モ利益モ消失シテ國民ハ別ニ新奇ナル神ノ一部類を造作スルニ至レリ

茲ニ吾輩ハ空中ノ諸神ヲ論ズルノ地ニ達セルガ先ツルドラ(破壞的暴風雨)ヨリ始メノ抑々此ノ神ハ右手ニ電光ヲ保持シ而シテ之レヲ惡人邪漢ノ頭上ニ投シ以テ彼等ヲ罰セルヲ以テ諸人ノ最モ聲高ク讚美セシ處ノモノナリ加之此ノ神ハ又大ニ義人ノ祈禱ヲ聽クヲ喜ビ彼等ヨリ總テノ苦痛ト危難ヲ去リ又空中ヨリ總テノ有害ナル現象ヲ除キテ之レヲ純潔ナラシメタリ故ニ又最良ノ國手ト呼バレタリ

吾レテシテ汝ノ最良ナル醫藥ヲ飲マシメ賜ヘ、ルドラ神、地上ニ於テ吾ガ生命ヲ百冬モ延シ賜ヘ、吾儕ヨリ總テノ恨ト苦難ヲ掃ヒ賜ヘ、何方ニテモ吾儕ヨリ禍ヲ驅リ出シ賜ヘ

サレバ、ルドラ神、汝ノ惠ノ御手ハ何處ニアルヤ、其御手疾病ヲ癒シ悲痛ヲ去リアラユル
惡害、諸神ノ送レルモノスヲ去リ賜フ其ノ御手、ア、イト大ナルモノヨ、吾ヲシテ汝ノ宥
恕ヲ感ゼシメ賜ヘ

ルドラ神ノ仲間ハ「雷鳴暴風雨ノ諸神」ナル又「天ノ歌ヒ人」ト呼バレタルマルツナリ、此等ノ諸
神ハ百雷轟々タルトニハ星辰ノ如ク遙カニ望マルハ、得ルモノナリト信ゼラレ其容態ハ最モ妄想
的ノ言語ヲ以テ叙サレタリ又彼等ノ現ル、時ハ常ニ「雨ノ神」ナルバルシャニアヲ助ケテ働カシム
而シテ其時バルシャニア神ハ彼ノ駿馬ニ鞭チテ沛然タル一陣ノ雨ヲ下スナリ

感謝ス可キバルシャニア神ノ流地上ニ下ルトキハ總テノ所造物ハ起死回生ノ飲料ヲ受ルナ
リ

次ニ蘇利耶ハ「耀ク」輝ル」等ノ意ニシテ太陽崇拜ノ爲メニ作ラレタル神ナルヲ明ナリ此ノ神ハ又
「遙カニ望見サル、神生ノ光」「黄金色ノ毛髪ヲ蓄ヘタル天子」等トヨバレタリ「曉ノ胸ヨリ灼々タ
ル光線ヲ迸出シ萬民ヲ呼ビ醒ス神ハ歌ヒ人ノ喜バシキ美シキ聲ニ祝ハレテ昇リ覆天ノ黒雲ヲ掃フ
彼ノ燦光ハ皮ヲ剝グガ如クニ彼ヨリ黒暗ヲ剝ギ、總テノ星辰ハ各々己ガ光ヲ收テ盗人ノ如クニ逃
レ去レリ」

左ニ此ノ神ニ捧ケラレタル頌歌ノ一例ヲ擧グ可シ

光り耀きいと美はしきスリアの神馬

あたりまばゆき神馬は喜の歌に祝はれて

イトラやくしく久方の天の頂に登り

一日の中になべて光のしるところを過く

要スルニ蘇利耶はヴァルナヨリ較々後ニ發達シタルモノ否ナヴァルナノ一方面即太陽ノ一方面ヲ
表セルモノナリ但シ古代ノ宗教ニアリテハ太陽ハ常ニ崇拜ノ目的物ナリシコハ余輩既ニ之ヲ埃
及ノ古教ニ於テモ觀察シタル處ナルガ實ニカ、ル煌々タル事物ハ巨濶的ニ總テ靈心生類ノ注意ヲ
引着セシモノナル可シ

諸順々韋陀中ニ現ハル、諸神ニ論シ及サバ實ニ際限ナキヲ以テ更ニ他ノ異ナリタル諸神ニ論及セ
ズ只以上ニ陳述シタル處ヲ概括シテ以テ本章ヲ終ルベシ但シ鬼神論ナルモノハ總テ偉大ナル事物
ヲ神トスルモノナリ而シテ印度ノ如キハ奇異ナル現象ニ富メル國柄ナレバ茲ニアリテ鬼神ノ無數
ニ現ハル、ハ敢テ奇ムニ足ラザルナリ而シテ今一々之ニ論及セバ實ニ筆ヲ止ムルノ期ナキヲ以
テ今更ニ異ナリタル諸神ニ付テ論ズルコト止メ只是レマテ論述セル處ヲ概括スルノミニシテ本章
ヲ終ル可シ而シテ茲ニ吾人ハ左ノ四事ヲ發見スルナリ

第一章 陀神統紀ニ從ヘハ諸神ハ左ノ三部類ニ分タルコト即チ

- (一) 空中ノ神
- (二) 天ノ神
- (三) 地ノ神

第二ヴァルナ(即チ希臘ニアリテハホラナス)、ディオオス(即チ希臘ニアリテハウニースラテノニ
アリテハヂュピター)此ノ二神ハアリアン人種ガ其ノ最終ノ分離前ニ崇拜シタル第一位ノ
二神ナルコト

第三空中ノ神ノ遂ニ阿耨尼蘇麻等ノ地ノ神ニ其ノ地位ヲ讓レル

第四章陀神統紀ノ發達ノ順序ハ論理的ニアラズシテ寧ロ詩人ノ妄念幻想ノ發象ナリシナリ而シテ吾人ハ此妄想ノ屢々混雜シテ時ニ或神ハ自分ノ父ノ襟ニ又自分ノ母ノ夫ナル襟ニ叙サレ實ニ此種ノ關係ハ甚ク混雜シテ辨別シ難キニ至レルヲ見ルナリ又夫等ヨリシニテ吾輩ハ左ノ結論ヲ導クナリ即チ詩人ハ只現象ヲ神トセシノミニ其等ノ可視的現象外ニ存在スル無上實在ニ付テハ常ニ只模糊タル觀念ヲ抱持セシノミナリシト云フ是レナリ

第九章 韋陀ノ宗教的觀

夫レ古代國民ノ宗教的觀念ヲ研究スルニ當テ先ツ上帝及ヒ永生ニ關スル彼等ノ觀念ヲ精査スルハ實ニ必用ナルコトニシテ又之ニヨリテ以テ其等ノ宗教ノ本態ハ發見セラル、コトナラン
余輩ハ前章ニ於テ韋陀人民ノ智識的發達ノ諸容態ヲ觀察セシガ茲ニ大ナル類似ノ彼等トキリシヤ人トノ間ニ存スル者アルヲ悟ルナリ但シ又大ニ注意スヘキ差違アリ何ゾヤ則チ印度ニアリテハ哲學スラ宗教的嗅味ヲ帶ブルニギリシヤニアリテハ純想、其ノ神學的宗教的ナルモノスラ哲學嗅味ヲ帶フルコト是レナリサレド吾人若シ常ニ此差違ヲ記臆セハ此等アリアン人種ノ二族間ニ大ナル類似ノ存スルモノアルヲ知ラル、ナリ

諸テ此等二族ノ早代ノ宗教文學ニ於テハ孰レニ於テモ吾人ハ人類ノ宗教的性質未來ノ運命及ヒ現世ノ義務等ニ就テ記スル處アルヲ見ルコト甚ク少ナシ蓋シ此等ノ觀念ハ印度ニ於テモ亦ギリシヤニ於テモ均シク后世ニ發達シタルモノナレバナリ而シテギリシヤニ於テハ始メテ思想家ノ注意ヲ外界ノ事物ヨリ人類内部ノ性質ニ導キシ者ハトシテラチスナルコトヲ知ラルレ併シ印度ニアリテハ此カル新時代ヲ創設セシモノ、誰ナルヤハ容易ニ知ラル、能ハス實ニ此カル新時代ハギリシヤニ於テ有シ如ク印度ニ有テハ忽然ニ導レザリシ也殊ニ印度ニアリテハ反對ナル觀念スラ相混淆シ共ニ生長シタルガ故ニ吾人ハ更ニカ、ル時代ノ發端ト生長トヲ辨別スルコトノ困難ナルヲ感ズル也抑モ韋陀ノ記スル所ニヨリテ判スルニ神人間ノ關係ハ左ノ如ク概念セラレタルカ如シ則チ人間ハ常ニ神ノ掌中ニアルコト神ハ強クシテ人間ハ弱キト故ニ人間ノ義務ハ罪過ヲ犯セル場合ニ於テハ

神ノ怒ヲ和ラケ恐怖ト患難ノ時ニ於テハ神ノ祐助ヲ祈ルコト是レナリサント是等ハ韋陀人民ノ此關係ニ就テ感セシ總テニアラズ彼等ハ又左ノ如ク感ゼリ則チ神ハ決テ人類ヲ欺騙セサルヘシ神ハ朋友トシテ兄弟トシテ又父トシテ人間ニ愛セラレ信ゼラル、テ要求スルノ權ヲ有テリ又信仰ナクハ供獻物モ祈禱モ無益ナルヘシト

然リ而シテ此等ノ觀念即チ神ニ對スル人間ノ關係及ヒ義務ニ關スル諸觀念ハ孰レノ古國民ニ於テモ客觀的可視的宗教ヲ建設スル勳ノ第一着歩ヲ生スルモノナリ而シテ此ノ第一着歩ハ韋陀ノ宗教ニ於テハ供獻式ヲ設立スルコトナリキ最初ニ奠ケラレタル神酒ハソマ酒(ソマ酒ハ后ニアグニノ如ク一ノ神トナレリ)ニシテ之レヲ奠クルモノハ常ニ僧侶即チ家長ナリシ但シ此等二物則チ火トソマ酒ハ始メ原始ノアリアンの眞神(則チウウルナ及ヒディオス神)ニ奠ケラレタルモノナレバ漸々此二神ヲ壓倒シテ之レノ地位ヲ奪ヒ后遂ニ自ラ一ツノ神トナルニ至レリ

供獻ハ神人交通ノ一方法ナリト思惟セラル、カ併シ之レニヨリテ人間ハ神ノ仲間ニ入り聖ナル家族ノ一員トナルトハ早代ノアリアン人ノ信仰セシ處ナリ但シ彼等ハ人間ハ其身軀ノ脈絡ヲ流通スル普遍ノ生命アルノ德ニヨリテ神ノ一子ナリト信シタリキ而シテ彼等ノ所謂普遍生命トハ雨ノ草木中ニ注入スル隱微ナル火氣ナリキ

然リ而シテ古代國民ノ宗教的信仰ハ此等ノ供獻ノ觀念ト供獻式設立トノ二者ヨリ出立スルモノナリ而シテ茲(即チ神ニ供物ヲナスキ)ニ人々ハ自カラ造物主ニ咫尺スルヲ感得シ又夫レニ對スル巨多ノ義務アルヲ覺ルナリ更ニ又供獻ノ發達ヲ助クル第二ノ要素アリ即チ罪惡ノ意識是レナリ但シ人々若シ自己ノ罪惡ト不完全ト又自己ノ荏弱ニ其良心ノ要求スル總テノ義務ヲ十全スル能ハサルコト

ヲ覺ルモノナレバ遂ニ己ガ代贖トシテ或ル犧牲ヲ神ニ捧グルニ至ル而シテ沈痛ノ良心ハ其等犧牲ノ神ニ甘受セラルルヲ感ズル迄安心ヲ得能ハルザルモノナリサレバ次ノ頌歌ヨリ明ナル如ク韋陀時代ノ人民ハ神ハ直チニ其等ノ供物ヲ甘受スルモノトセリ「諸神は始めに美はしき歌を命じ次に火次に奠酒を命じたりき彼は肉軀を護る犧牲となりき地も天も水も彼を知る」

吾人ハ當ニ供物ノ神ニ甘受セラル、ヲ見ルノミナラス實ニ供物其物ノ直チニ一ノ神トセラル、ヲ見ル更ニ祈禱スラアグニソマノ如ク一ノ神トセラル、ヲ見ルナリ其ハ彼等ノ如ク天ニ住家ヲ有チ而シテ其ノ地ヨリ天ニ登ル時ハ彼等ノ如ク己カ住家ニ飯ルナリ其ハ無限ノ力ヲ有シ又惡靈ヲ打崩スル具翼ノ投箭ノ如キモノナリ」供獻式ノ神トセラル、ト共ニ僧侶則チ供獻式ノ執行者モ亦神トセラレタリキ

然リト雖韋陀禮拜ノ初代ニアリテハ其等ノ供獻式ハ如何ナル方法ニテ爲サレタルヤ精密ニ記述スル能ハス何トナレバ此點ニ關シテ現存スル章句ハ甚々僅少ナレバナリサレド今其等僅少ノ章句ニヨリテ想像スルニ「蓋シ竈ヲ以テ祭壇トシ茲ニ火ヲ不斷ニ保存シ毎日一定ノ時刻殊ニ日出日没ノ兩時ニ至ラハ家長ハ牛乳乾酪穀物及ヒソマ酒等ヲ携來リテ此火ニ注キ以テ拜神ノ禮ヲ行フ而テ其時總テノ家族ハ其周圍ニ輪坐ス」是其方法ナリシガ如シ但シ公ノ禮拜ハ家族ノ禮拜ヨリ發達シタルモノニシテ最初ノ祭壇ハ家内ノ竈ナリシコトハ決シテ疑ヲ容ル能ハズ現ニ今日スラ竈ハ屋內ニ於テ最モ神聖ナル場處トセラル、處ノモノナリベルシヤノ如キニ至リテハ今日スラ少女ノ他家ニ嫁スル爲メ實家ヲ出ツルニ當リテハ先ツ竈ノ周圍ヲ廻ルコト七回ニシテ然ル后父ノ手ニ嚙吻スルコトハ一ノ儀式ナリト云フ

靈魂不滅ノ教義ハ或學者ノ説ニヨルバ韋陀中ニ存スルコト疑ハシト雖也併シ余ハ此教義ノ韋陀時代ニ教ヘラレタルヲ信スルナリ而シテ此點ニ付テハ左ノ語及頌歌(死骸ヲ火葬スル時ニ用ヰラル)ハ最モ必要ナルモノナリ

- (一) 吾儕ハ枝ヨリ離ル、熟果ノ如ク死ヨリ釋サル、ヲ得然レトモ不滅ヨリ釋サル、ヲ得ス
- (二) 死スル事ニテ吾儕ハ神ニ行ク
- (三) 目ハ太陽ニ行キ氣息ハ風ニ行クヲ得

天ニマテ又地ニマテ行クヲ得其ハ正當ノ事ナリ
 或ハ水ニマテ行クヲ得若シ其ハ汝ニ適スルナレバ
 汝ノ肢體ヲ以テ發ノ中ニ息ヘ
 不生ノ部分ハ汝ノ温氣ヲ以テ其ヲ温メ
 汝ノ熱汝ノ火炎ハ其ヲ温ムヲ得!
 汝ノ最モ親切ナル容態ニテア、火よ
 幸の世界に彼を導き至らせ給え

(リツク韋陀)

マクスミューラー氏ハ其傑者「宗教ノ起源」ニ於テ右ノ詩節ヲ詳ニ論述シテ以テ正シクリツク韋陀ヲ翻譯スルコトノ困難ナルコト(例ヘハ右ノ詩節中氏ノ不生ト譯シタル語ハ他ノ學者ノ山羊ト譯スル處ナルガ如シ)及ヒタトヒ正譯セラル、モ其等ノ古書中ニ於テ確定シタル教條的ノ言辭或ハ式文ヲ發見スルコトノ困難ナルヲ示セリ併シテハ兎ニ角韋陀人民ノ信セシモノハ總テ別ニ説明モ註釋

モ要セサルモノトシテ信シタルナリ吾人ハ又ヘブリユノ宗教ニ於テモ甚ダ之ニ類似スル狀態ヲ見ル則チヘブリユノ教ノ聖書中ニハ明亮ニ靈魂不滅ノ説ヲ記載セル處ナク之レガ絶對的ノ證據トシテ採用シ得ベキ一句ダニナシサレド猶太教全體ノ内ニ此教義ノ存在スルコトヲ否定スルハ惟フニ偏僻ナル否ナ淺薄ナル判斷ナルヘシ換言セハ古代ノ猶太人カ神ニ關シテ行フ處作中一點來世ノ信仰ニ關スルモノナク彼等ノ思想ハ全ク現世ノ事物ニ吸收セラレタリシト臆定スルハ如何ナル宗教哲學モ許容セサル處ニシテ殊ニ舊約書神學ノ容レサル處ナリ
 然リ而シテ韋陀ノ詩歌ハ舊約書ヨリモ靈魂不滅ノ希望ヲ有スルコト多シト云ウ今左ニヤマ神ノ住家ヲ叙セル一節ヲ示スヘシ

天恩ノ優渥ナルヲ感シ一心之ニ奉仕スル人々ノ住所ナリ
 正義ナル靈魂ノ爲メニ一生ヨリ他生ニ連續スル所ナリ
 正義ナル靈魂ハ各々美ヲ失フヨリハ却テ美ヲ以テ充サル、所ナリ

(リツク韋陀)

カエキ博士曰クイト高キ天ノ真中點ニハ永久不衰ノ光焰燦然トシテ煥發シ永遠不滅ノ水氣泂然トシテ噴出セリ其處ニハ情慾欲望及ヒ羨慕ハ失セテ福祥觀喜安樂及ヒ幸福ハ永住スサレド此ノ幸ナル生活ニ付テハリツク韋陀中更ニ明亮ニ叙サレタル處ナシ靈界ニ至ラバ新シキ身軀ハ賦與セラル、ヤ新事業ノ其處ニ設ケラレタルモノアルヤ此等ハリツク韋陀ノ問フ處ニアラス唯人ハジアルナ神ノ命令ニ順ヒテ生ヲ送リ此神及ヒアチチ神ノ前ニアリテ罪ナカラシコトヲ偏ニ勉メタリキ又小兒ノ如キ惡信ニテ時至ラハ幸福圓滿ナル諸神ノ中ニ一神靈トナリ祖先ヤ父母ト共ニ永久ノ光明中

ニ住スルナラン而シテ其時ハ彼等ノ如キ容貌及ヒ勢力ヲ以テ彼等ノ仲間トナリ彼等ノ事業ノ補手トナリ得ルナラントノ希望ヲ抱ケリ(リック韋陀七十頁)

夫レ天ノ恩惠ハ有徳者ニ對スル報酬ナレハ又惡人虛言者逆戻者及ヒ常ニ銳眼ナルヴワルナ神ミトテ又刑罰ナル可カラズ而シテ此等ノ惡漢ハ不滅ノ社會及ヒ永久ニ煙々タル靈界ノ生活ニ入ルテ許サレズ其身軀ノ墓地ニ埋メラル、如ク其靈魂モ亦望ナキ暗冥坑中ニ投入シラル、ナリサント惡靈受苦ノ場所ニ付テハ韋陀ハ毫モ救ユル處ナク又輪廻ノ說ニ付テモ少シモ記スル處ナシ但シ靈魂輪廻ノ說ハ數千年間印度ノ精神ヲ支配セシモノニシテ佛教ノ如キハバラモン教ノ神祇ヲ排斥セシモノ拘ハラズ此說ハ探テ以テ其基礎トナシ其虛妄ナキ哲學ハ之ヲ土臺トシテ壯大複雜ナル儀式ヲ有スル一宗教ヲ建設シタルナリ

要スルニ靈魂不滅ハ韋陀ノ詩人ノ確信セシ處ナルハ疑ヲ容レズ蓋シ此信仰ハ人類ニ固有ナルモノニシテ靈魂ノ内部ニ深ク印セラレタルモノナリ實ニ身軀ノ衰亡スルト共ニ總テ獨立ナル思想觀念概念及ヒ回想等ノ一團則チ吾輩ノ靈魂ト稱スル處ノモノモ又滅亡スルナラントハ何人モ信スルヲ好マサル處ナルハ第十九世紀ノ末期ニ於ケル吾輩ニ徴シテ明亮ナリ然ラハ吾人ノ祖先ノ心裏ニ於テモ亦則チヒマラヤ山麓ニ住セルモノナイル河畔ニ住セルモノユフラス河邊ノ平原ニ住セルモノヲ其孰レヲ問ハズ彼等ノ心裏ニ於テモ亦同一ノ感情ノ存ス可キヤ敢テ疑フヘキニ非ス

諸テ家族ハ既ニ余輩ノ陳述シタル如ク古代ノアリアン人種ニアリテハ主要ナル制度ナリシ父一家ノ長又ハ神ニシテ其家族ノ上ニ無限ノ勢力ヲ有シ而シテ一人トシテ之レニ逆フモノナカリキ但

シ此ハ今日ニ於テモ一定ノ住所ナク年中天幕内ニ住シテ所々ニ轉移彷徨スルノ民族間ニアリテハ行ハル、處ノモノナリ

家族ノ集會ハ其性質ニ於テハ宗教的ナル且ツ國民的ナル節會ノ一種ナリト思惟セラレタリキ此等ノ節會ニ於テ若キ男女ハ相出會シ互ニ知己ヲ作ル而シテ此ハ屢々結婚ヲ導ク媒介ナリシ此場合ニ於テハ母モ又屢々之ニ望ミ己カ娘ヲ助ケテ適當ナル配遇者ヲ求メシメタリキ又求婚者ニアリテハ若シ己カ戀愛スル少娘ニシテ結婚ヲ諾セシカ直チニ未來ノ外舅及ヒ其最モ親近ナル家族ニ華美ナル贈物ヲナシ以テ其娘ヲ購求シタリシ而シテ此習慣ノ古代ニアリテ一般諸國民間ニ行ハレシコトハ實ニ驚クヘキ程ニシテ更ニ今日ニアリテモ亞細亞佛利加ノ諸邦ニ存續セラルテ見ルナリ併シ今日歐米ニアリテハ此ハ大ニ變化シテ普通ノ規則ノ如ク求婚者ハ將來一家族ノ生活ヲ始ムルニ於テ婦人ノ爲スヘキ部分ヲ負擔セシコトヲ未來ノ妻ニ希望スルナリ今妻ヲ購求スル古代ノ習慣ハ如何ナル原因ヨリ起リシヤヲ溯源スルニ蓋シ左ノ二原因ヨリ起リシモノ、如シ

第一 女子ノ少キコト

第二 男女ノ出會スルコトノ少キコト

而シテ今日スラ妻ヲ購求スルノ習慣ハ「ホレム」制ヲ採用スル邦國ニアリテハ大抵行ワル、カ如シ但シ此制ニ從ヘハ若キ男子ハ結婚日ニ至ルマテ妻トナサントスル女子ト出會スルヲ得ス

又妻タルモノハ夫ノ家ニアリテハ總テノ家僕及職工ノ止ノミナラス更ニ舅姑ノ上ニスラ權勢ヲ有シタリキカエキ博士曰ク韋陀ノ唱歌者ハ夫ト其ノ愛好スル妻——則チ彼ノ「ホレム」トシテ彼家ニアリテ愛ノ住スル所又ハ天福トシテ稱讚セラル、モノ——トノ間ノ優シキ關係ヨリハ他ニ優シキ

關係アルヲ知ラス而シテ妻タルモノ、家族中ニアリテ高等ナル地位ヲ占メタルコトハ左ノ事實ニ
ヨリテ明カナリ則チ供獻ニ於テ妻ハ其夫ヲ助ケ早朝ニ於テハ和樂ノ心ヲ以テ共ニ適當ナル言辭ニ
テ神ニ祈禱ヲ捧ケタリキ

(リック韋陀十五頁)

茲ニ又吾人ノ間ハント欲スルコトアリ何ソ則チ韋陀ノ人民ハ一夫多妻主義ナリシカ又ハ一夫一婦
主義ナリシカト云ウコト是ナリカエギ博士ノ説ニヨレハ一婦主義ナリシカ如シ而シテハ左ニ掲
クル氏ノ言ニテ徴セラル、ナリ曰ク「一婦主義ハ彼等ノ律法ナラザリシナランニハ余ハ其等ノ關
係ヲ了解スル能ハズ而シテ是又詩句ノ直接ニ指教スル處ノモノナリト」サレド若シ一婦制トハ一妻
ノ外法律上許容スル妻トシテカ或ハ妾トシテカ他ニ婦女ヲ有スルヲ禁ズルノ謂ナランカ余ハ此ノ
説ニ贊成スル能ハズ何トナレバ韋陀人民ハカ、ル主義ヲ順奉セシ證トシテ引用シ得ヘキ一句ダニ
アルヲ知ラザレバナリサレド一婦制トハ單ニ一家族ノ女子中ノ長トシテハ法律上一妻ヨリ許サズ
トノ謂ナリトセハ吾輩ハ此ニ對スル巨多ノ憑證アルヲ見ルナリ惟フニ多妻ヲ蓄フルコトハ移轉生
活ニ於テハ一ノ必要物ナリシナランカエギ博士スラ上等社會ニアリテハ多妻ヲ蓄ヘタリシト云ヘ
リサレハ吾輩ハ一婦主義ハ古代ノアリアン人種ニ於テ一定ノ律法ナリシト云ウヲ得ス若シ然ラザ
ランカ其罪過ハ(則チ一婦ノ律法ニ背反シテ多妻ヲ婚ルコト)大ニ頌歌作者及ヒ其宗教ノ嚮導者ヲ
ル人々ノ慨嘆スヘキ筈ノ事ナレバナリ然リ而シテ今余カ推想スル處ニヨレハ左ノ如シ多妻主義ハ
法律上許容スル處ナリシガ之ヲ行フト否トハ今日多妻主義ノ公行セラル、總テノ邦國ニ於ケルガ
如ク人々ノ資財ノ多寡及ヒ多妻ヲ欲スルノ性向如何ニ委シタルガ如シ但シ本妻ハ只一人ニシテ總
テ他ノモノ、上ニ在リシコトヲ記憶セサルヘカラス

是レ實ニ余カ今日日本ニ於テ觀察セル狀態ニ甚ダ類似スルガ如シ惟フニ婚姻ニ關シテハ古代ノ
アリアン人ハ甚々現今ノ日本人ニ類似セリト云ウモ敢テ失言ニアラサルヘシ

又男子ノ誕生ハ大ニ希望セラル、處ニシテ之レカ爲メ屢々祈禱ヲ捧クルコトアリシト云ウ蓋シ養
子ハ以テ家族ノ系統ヲ充タスニ十分ナラザルモノト思惟セラレタレハナリ其ハ左ノ頌歌ノ一節ニ
ヨリテ明ラカナリ

他人ヨリ生レタルモノハ真正ナル嗣子ニアラス

(リック韋陀)

又女子ノ出生ハ大ニ彼等ノ嫌忌セシ處ニシテ之ヲ避ケンカ爲メ屢々祈禱ヲ捧ケシト云フ實ニ或ル
學者ガ「女子ノ出生ハ何處ニテモ許サル、ガ茲ニハ男子ノ出生ハ許サレタリ」ト云ヘルハ敢テ過言
ニアラザルナリ又父ハ任意ニ己カ欲ゼサル兒ヲ棄ルノ權ヲ有シタリキ更ニ老人スラ有爲ノ年齢ヲ
經過シタルトハ屢々放棄セラレタリキ余輩ハ實ニ此カル行爲ノ奇怪ナルニ驚ク、サレド此習慣ハ
印度セルマン人種間ニ於テモ亦行ル、處ノモノナリキマン氏曰ク「セルマン人ノ間ニアリテ
ハ家長若シ六十歳ヲ超エ身軀衰弱シテ他人ノ助ケナクハ歩立シ或ハ乘馬サヘモ爲ス能ハサ
ルニ至レハ其權ヲ捨テ嫡子ニ讓リ自ラ家僕ノ職ヲ探ラサルヲ得サリキ又老人ハ殘酷ナル子孫ニヨ
リテ己カ壯年ノ際愛情ト恩厚ノ念トヲ忘却シタル罪ヲ茲ニ贖ハシメラレタリキ又無用ノ長物トナ
リタル老人ハ直チニ謀殺セラル、カ或ハ山野ニ放棄セラレテ遂ニ餓死スルニ至ラシメラレタリキ
今此事ヲ撮テ以テセミチツク或ハモンゴリアン人種ノ長老ヲ尊敬シタル事ニ比スレハ實ニアリア
ン人種古代ノ文明ハ吾人ヲシテ悚然タラシムルナリサレド既ニ陳述セシ如クアリアン人ハ万事万
端利己的功利的ノ見點ヨリ判斷スルノ天性アレハ彼等ニアリテハ敢テ怪ムニ足ラサルナリ

右ツノメル氏ノ示セルセルマン種族ニ於ケル老人タルモノ、有様ヲ吾人ガ舊約書中ニ見ル處ノアラハムイサクヤコブ其他ノ人々ノ漸々老スルニ及テ益々諸人ニ敬愛セラレ殆ント崇拜セラレ計ニ至レル有様ニ比シ又セルマン種族ノ子孫タルモノノ不孝ナル状態ヲ孔孟其他支那倫理家宗教家ノ遺書中ニ發現スル孝悌ノ教ニ比スレハ實ニ霄壤ノ差モ管ナラサルヲ見ルヘシ

今ヤ余輩ハ族制ノ問題ヲ終ラントスルニ當テ尙一點ノ着過スヘカラサルモノアリ何ソヤ寡婦ノ禁殺是レナリ詳言セハ夫ノ死セルキハ其妻モ亦其死ト共ニ禁殺サル、コト是ナリ此ク人情ニ反スル惡習慣ハ千八百二十九年頃大英國ノ權力ニヨリテ嚴禁セラル、マテハ連續シタリキ併シリツク韋陀ニアリテハ之ニ關スル暗示の言ナキニ非スト唯モ明示セル處ナシ但シ此問題ハ後章ニ於テ詳論スヘケレハ茲ニハ省察スヘシ

吾輩ハ此等ノ頌歌中ニ於テ彼等ノ道德及道德法ノ概念ヲ明カニスル處ノモノヲ發見スルヲ甚々少シ余カ先ニ宗教ニ關シテ此等ノ頌歌ニ付テ云ヘル處ノモノ則チ彼等は宗教的教義及訓言ノ組織的ナル記述ヨリモ寧ロ詩人ノ天才ノ發露ナリト云ヘル處ノモノハ又此場合ニ於テモ適用サル、ナリ但シ一般人性ニ屬スル多クノ道德觀念ハ何處ニアリテモ發見セラル、カ如ク茲ニ於テモ亦發見セラルルヲ得則チ正義仁愛等ハ大ニ稱讚セラレ殘酷不義等ノ大ニ擯斥セラル、ヲ見ルサント現今ニアリテハ此人種ハ如何程マテ彼等ノ聖經中ニ顯ル、倫理的訓言ヲ實踐シタルヤテ決スルハ容易ノ業ニアラス余ハ既ニ其等文書ノ起源ハ甚々荒蕪タルモノニシテ寧ロ異ナリタル又距リタル——時間ニ於テモ場所ニ於テモ——部族ノ詩人の生産物ナリト云ヘリサレハ其等ノ書ニヨリ原始アリアン人ノ全體ヲ完全ニ描寫スルハ固ヨリ困難ナルヘシ余ハ只タ或ル問題ニ付テ韋陀人民ノ思想ヲ知ル

ヲ要スルキ只其朦朧タル幻影ヲ認メ得ルノミ而モ尙ホ社會ノ状態ニ付テハ敢テ概見シ難キニ非ラサルナリ

マクスミューラー氏ハ其傑作「宗教ノ起源」ニ於テ甚精密ニ韋陀ノ宗教ニ於ケル「法」ノ概念ヲ説明セラレタリ氏ハ先ツ法ノ概念ハ最初ニ世界及神ノ性質ニ關スル概念ヨリ導カレタル者トシテ説明シ曰若吾人ハ蠻民或ハ原始人民中ニ無益ニ搜ル概念アリトセンカ其ハ法ノ觀念ナルヘシトハ吾人ノ屬々耳ニスル處ナリ惟ニ希臘或ハ羅甸ニ於テヌラ「法ノ統御」ノ正解ヲ得シコト極メテ困難ナルヘシ——法ノ統御トハアトガイル侯カ其有益ナル書ニ名クシ處ノ語ナリ——尙又此觀念ハ其最初ノ半曉ラレタル形態ニアリテハ殆ント韋陀中總テ他ノ觀念ノ如ク甚ダ古キモノナリ而シテ余ハ信ス其ハ梵語ノ「リタ」テフ語ナリシト蓋シ「リタ」ナル語ハ印度ノ古教ヲ論スル者ノ嘗テ記シタルヲ稀ナル否殆ント皆無ナル語ナレ併シ印度ノ宗教的詩歌中ニハ深遠ナル原語ノ如ク響クモノナリ——殆ント總テノ神ハ本ト「リタ」ナル語ヨリ導カレタル形容詞ヲ與ヘラレタリキ而シテ此形容詞ハ二クノ觀念ヲ表ハスカ如シ第一神ハ自然ノ秩序ヲ建設シ又自然ハ神ノ命令ニ從順スルコト第二人類ノ從順セサルヘカラサル一ノ道德法アルコト及ヒ其ヲ犯セハ神罰ヲ蒙ルコト是ナリ（宗教起原二百二十三頁）

以上引用セルマクス、ミューラー氏ノ說ハインダス河畔ニ於テ三千年前其等ノ頌歌ヲ謠ヒシ詩人ノ真正ナル觀念ナルカ或ハオキスホルド大學ノ講師ノ功妙ナル想像ナルカ之レ吾人ノ敢テ知ル處ニアラザレ尙ホ吾人ハ左ノ如ク確信スルヲ得ヘシ即チカク高妙ナル頌歌ヲ詠シタル原始ノアリアン人否アリアン人ノ一族ハ哲學風ナル宗教的觀念ニ於テモ又タ道德上ノ諸觀念ニ於テモ——此レ

等ノ諸觀念ハ總テ國ノ文野ヲ論セス社會的秩序及ヒ其ノ他或ル集合生活ガ其ノ存在ヲ維持スルニ於テ最トモ依屬スル處ノモノナリ。大ニ進歩シタルモノナラサルヘカラスト但シ自生的ニ發達シタル自然道德及ヒ道德法ハ近代ノ裁判所ノ複雜ナル機關ヨリモ屢々善ク働ラクモノナリ。兎ニ角モ社會法ノ原始的觀念ナルモノハ惡ヲ摘發シテ而シテ之ヲ罰スルコトナリトセハタトヒ移轉人民トテモ亦之ヲ有セサルヘカラスト若シ然ラザランカ其ノ全存在ハ忽マテニ破壊スヘクンバナリ

今右ニマクテ「宗教起源」中ヨリ引用セシ處ノ語ニヨリテ諸君ハマクズミューラー氏ハ「法」ノ觀念ヲ社會的ヨリモ寧ロ世界學的ニ論究セラレタルコトヲ知ラル、ナラン但シ氏ハ右ノ論ニヨリテ左ノ數件ヲ示サントセシナリ即チ早代ノアリアン人ハ最終ノ分離前ニアリテ既ニ宇宙ノ秩序及ヒ法則ヲ信セシコト鬼神談及ヒ符合的言語ノ下ニ彼等ハ快活ニカ、ル超絶的問題——人間世界始ヨリ今日ニ至ルマデ多クノ睿智ナル思辨家ヲ煩ハセシモノ——ニ關スル彼等ノ抽象的觀念ヲ表セルコト等ナリ但シ余ハ此後比較先天的神學トシテ此等ノ問題ヲ再論スヘクンバ茲ニハ只マクスミューラー氏ノ語ヲ左ニ引用シテ終ラントス氏ハ韋陀文學及ヒベルシヤノ古文學ヨリ多クノ引用ヲナセル后揚言シテ曰ク

此ハ宇宙ノ秩序ニ於ケル信仰ハ既ニ印度人及ヒアリアン人ノ分離前ニ存立セシコト又其ハ彼等往古ノ普通宗教ノ一部分ヲナシ而シテアベスタノ最モ古キ章及ヒ韋陀ノ最モ古キ頌歌ヨリモ更ニ古キモノナルコト示スニ十分ナルヘシ其ハ后世ニ於テセル思辨ノ結果ニアラス又只種々ノ神祇及ヒ彼等ノ多少壓制的支配ニ於ケル信仰ヨリ來リシモノニアラス否南部アリア

シ人ノ最モ古キ宗教ノ裏面ニ蟠踞シ又之ヲ貫通スル一ノ直覺的觀念ナリ而シテ其ハ彼等宗教ノ真正ナル價直ヲ定ムルニ於テ「曉ノ物語」アグニノ物語インドラノ物語ルトラノ物語等ヨリ更ニ必要ナルモノナリ(宗教起源二百四十二頁)

今ヤ吾人ハ韋陀宗教的觀念ノ研究ヲ終ラントスルニ際シ茲ニ一言スヘキコトアリ第一、既ニ陳述セシ如ク印度史否ナ就レノ國史ニアリテモ如此早代ニ於テハ其ノ善ク説明セラレ其善ク彙類セラレタル數多ノ觀念ヲ發見スルコト能ハサル者ナリサレバ余輩ガ此等ノ時代ニ付テ己ガ意見ヲ作ラントスルニ當ツテヤ其材料タル常ニ甚タ乏シクシテ且不完全ナリ則チ其最モ貴重ナル材料トスヘキ記録スラ其ノ言語ハ鬼神論的符合或ハ譬喩ニテ充タサレ更ニ其多クハ吾人ノ了解スルノ希望ナキモノナリ而シテ前ヨリ屢々陳述セルカ如ク近世學者カ其等ノ觀念符號譬喩及ヒ言語ニ付テ與ヘタル解釋ヲ信受スルコトニ付テハ大ニ注意セサルヘカラスト勿論余ハ彼等ノ勞力及ヒ其成功セシ偉大ナル功果ヲ尊バザルニアラズ併シ只單ニカ、ル乏シキ不完全ナル材料ノ上ニアル而モ必要ナル事件ニ付テハ失禮ニ他人ノ言ヲ信受スヘカラスト又之ヲ信受スルニ於テハ宜シク注意潛心ナラサルヘカラスト云々

第二ニ余輩ハ常ニ總テノ宗教ノ始メハ必ス混淆錯綜シ論理的辨論及ヒ研討ニヨラサレハ満足サルザル現今ノ本能性ニ對シテハ甚タ不足ナルモノナルコトヲ記憶セサルヘカラスト夫レ各國古代史ノ材料ハ原人ノ宗教的觀念ト均シク不完全ニシテ且鬼神的表现及ヒ言語中ニ含蓄セラレタルモノニアラサルカ現日本人ノ極初ノ植民歴史ハ其自然及ヒ神ノ順序ニ於ケル概念及ヒ其他ノ宗教的觀念ト均シク荒逸ノ中ニアルモノニハアラサルガ吾人ハ舊的書ヲ見ルモホトト見ルモローマノ

鬼神論ヲ見ルモ更ニ其他諸國民ノ鬼神誌ヲ見ルモ均シク事物ノ全一ノ状態ヲ發見スルナリ實ニ彼等ノ間ニ於ケル類似タルヤ甚ク著シモンセン博士曰クラテン人ノ崇拜ハ大ニ人間地上ノ快樂ニ基ツクモノニシテ自然力ノ恐怖ニ因ルコト甚ク少シ故ニ其ハ主トシテ觀喜ノ表現頌歌遊戯舞踏殊ニ宴會等ニ於テ成立スト(羅馬史第一卷二百三十二頁)是レ亦韋陀教ノ本相ナリ則チ韋陀中吾人ハ此ノ觀客の宗教ノ本相ハ諸神ノ歸依者ニ與フル繁榮及ヒ戰爭ニ於テ順依者ヲシテ勝利者ヲラシムル諸神ノ佑助ニ對シテ彼等ノ發シタル讚美及ヒ感謝ナルコトヲ見ルナリ

之實ニアリアン人種殊ニインドアリアン人及ヒギリキ、ローマン、アリアン人ノ宗教的生活ノ第一段ナリサント較々后ニ至リテハ吾人ハ宗教の觀念ノ豐富許多ナルニ付テハインドノ大ニギリキヤ、ローマ等ヨリ卓越スルヲ見ル詳言セハギリキヤ、ローマハ嘗テ一ツノ普通宗教ダニ生出セシコトナク常ニアシヤノ國民ト接觸シテ始メテ得タリキ而シテ其得ルヤ曾テ之ヲ成熟セシメントナリ常ニ荏弱ナル状態ニアラシメタリキ之ニ反シテインドニアリテハ吾人ハリツク韋陀ノ始メヨリ今日ニ至ルマテ宗教的信仰信條及ヒ觀念ノ無限ナル變化ヲ見ル實ニ今日スラ吾人ハ婆羅門教ニ於テハ續々新派ノ現ル、ヲ見ルナリ但シ此等ノ新派タル假令ヒ根本ノ婆羅門教トハ分離セズト雖モ又舊ニ染マラスシテ外國ノ好思想ヲ導キ薪新ナル觀念ヲ發起セル者ナリ故ニ博士ウエベルノ「吾人ハ印度文學ニ於テ自然崇拜(其ハ何處ニ於テモ同シク只自然ノ獨固的現象ヲ見認メ而シテ最初ニハ其等ヲ超人間的ノモノトナス)ヨリ始マリ人心ノ一般ニ經過スル殆ント總テノ宗教的發達ノ痕跡ヲ見ル」(印度文學史五頁)ト云ヘルハ實ニ正當ノ言ナリト云ハサルヲ得ス

今ヤ余輩ハクツク韋陀教ノ終リニ達セリ而シテ茲ニ吾人ハ印度人ノ甚ク其ノ氣候ニ感化サンタル

ヲ見ル之レ又勿論其ノ宗教的生活ヲモ感化シタルモノナリ先ニ吾人ハアリアン人ハ印度ヲ征服シタリト云ヘリサント茲ニ又甚ク速ニ印度ニ征服セラレタルヲ見ル實ニ今日ニアリテハ數千年間ニ堆積セル塵埃中ニ隱見スル僅少ノ言語ノ外亦彼等ト其同胞ナル歐洲人トノ間ニ類似スル處ナキニ至レリ

實ニ宗教及神學ノ變遷ヲ見テモ如何ニ彼等ハ漸々腐敗セシヤチ知ラル、也夫レリツク韋陀中ニアリテハ吾人ハウワルナ神ハ慈悲或ハ愛或ハ悔改或ハ寬恕ノ神トナレトテ學ヘリ吾人ハインドラ神ノ總テ四十三神ノ上ニ一大權力ヲ保ツニ至レルヲ學ヘリ吾人ハ全人種ノ健全ナル宗教的意識ヲ觀察セリサント今リツク韋陀ヲ去テ他ノ韋陀ニ入ルル則爾后ノ宗教ヲ觀察スルキハ吾人ハ忽チ偉大ナル變化即道德上宗教上及ヒ身體上ノ大ナル腐敗ニ一驚ヲ喫セサルヲ得ズ故エドワード、ブレンゼンセー博士問ウテ曰ハク如何ニシテ印度アリアン人ノ宗教的意識ハ此カル高地位ニ止マラスシテ速ニ凡神の觀念ノ勢力ノ下ニ墮落セシヤト」而シテ之ニ對スル答説ハ左ノ如シ此觀念ハウワルナ神ノ万神中ニ秀出シテ其主權ヲ掌握セシ最盛時代ニ於テスラ印度人ノ精神ヨリ全ク驅逐サンザリシモノナリ吾人ハ既ニ幾回ノ觀察ヲ經タル如ク韋陀教ニアリテハタトヒ大勢力アル神ト雖ドモ嘗テ諸神ノ上ニ絶對ノ主權ヲ保テシコトナク又全ク下等ノ諸神ヲ服從スル能ハサリシヲ以テ遂ニ下等ノ性質ヲ受クルニ至リシナリ

「カクシテ尙ホ惡ト云ウ大ナル隱語ハ釋明サレズニ殘リタリキ而シテ其陰影ハ主ナル諸神ノ聖顔上ニスラ落チタリキ吾人ノ既ニ觀察セシ如クウワルナ神ハ事物ノ光面上ニ住スルト共ニ又暗面上ニモ住シタリキ彼ハ善ノ源泉ナリシト共ニ又惡ノ分與者ナリキ然リ而シテ印度人ノ有スルガ如キ

哲學的ナル精神ハ諸神ニ規スニ惡ノ説明ヲ以テセサルヲ得シヤ否ナ遂ニ之レヲ諸神ノ上ニ歸シタ
 リキカクシテ吾人ハ一説ヲ學ヒ得ルナリ即チ善惡ハ一物ニシテ均シク一般ノ實在物ニ必要ナルモ
 ノナリ只彼等ハ一原道ノ異ナリタル表顯ナルナリト損傷サレタル良心ハ此妄想ニ逆ヒテ其ノ聲ヲ
 上ケス否ナ其ハ其ノ異議ヲ制シ又國教ヲシテ不幸ナル偏向中ニ入ラシメタル形而上の思辨ノ勢力
 ニヨリテ壓倒サレタルナリ然リト雖モ良心ノ此ノ要求ハ非常ノ勢力ヲ以テ表現セラレテ決シテ消滅
 サレタルコトナシ其ハ道德的生活ヲシテ凡神の思辨ノ偶像ニ犧牲タラシムル東西兩洋ノ幽玄ナル形
 而上學ニ對シテ永久ノ辨證トシテ立テリ(フレンゼンセー氏古代ノ世界ト基督教百八十一頁)

第十章 猶太教

シリアノ一隅バレスタイント稱セラル、地ニ住セシ一小國民アリ之レヲ猶太人ト云ヘリ而シテ猶
 太教トハ此ノ國民ノ生出シタル一宗教ナリ抑々此ノ人民ハ其ノ歴史中常ニ微弱ナル一小國民トシ
 テ連續シ嘗テ物質的文明ノ進歩上一ノ貴重ナル影響ヲモ及ボシタルコトナシサレド奇怪ニモ宗教的
 觀念ニ於テハ宙ニ世界ヲ一變シタルノミナラズ又世界ノ道德的社會的併ニ宗教的意識ヲ高メタリ
 キ夫レベルシヤヤグリーキ、ローマ及ビ其ノ他ノ大國民ノ文明進歩上ニ與ヘタル大功勞ハ決シテ
 消失シタルニ非ズ又彼等ノ發出セシ僅少ノ觀念ハ實ニ人類全體ノ中ニ保存セラル、ナリサレド此
 等ヲ外ニシテハ彼等ハ一モナセル處ナシ然リ而シテ人類全體ノ道德的并ニ宗教的生活ヲ生々タラ
 シメ以テ高潔純誠ノ域ニ達セシメタル眞生命ハ實ニ此ノ一小國民即チ一ツノ著シキ自然的活動ヲ
 生シタルコトナキ猶太人ヨリ併出シタルモノナリサレバ今此ノ奇シキ國民ト古代ノ諸大國民トヲ比
 較セシカ余輩ハ愕然トシテ左ノ問題ヲ發セザルヲ得ズ即チ

「此カル荏弱ナル一小國民ハ如何ニシテ宙ニキリシヤローマ等ノ大帝國ヲ征服(宗教上ニテ云
 フ)シタルノミナラズ又世界ノ最モ開化シタル諸國民ヲ從服セシメタルヤ」ト
 今ヤ余輩ハ此奇シキ國民、過ギニシ千五百年間歐洲人ノ宗教的生命ノ大源泉タリシ此ノ稀有ナル
 國民ニ付テ論ズル處アラントス諸君夫レ宜シク括目以テ之レヲ閱セラレヨ但シ余輩ハ今猶太人ノ
 宗教的觀念ハ歐洲人ノ靈界ヲ支配セリト云ヘリ是レ基督教ハ只猶太教ノ連續否ヲ完成シタルモノ
 ニ外ナラサルヲ以テナリ

猶太人ノ古代ノ歴史ハ只「オールド、テストメント」ト總稱セラレタル彼等ノ遺書ニ於テ發見セラ
ル、ノミナリ「テストメント」(ヘブリエー語ニテハバリートト云フ蓋シ約束ノ義ナリ)ト呼ベ
タル其等ノ書ハ上帝ト猶太人トノ間ニ成レル約束ニシテ而シテ此ノ約束ハ猶太人史ノ初代ニ於テ
成サレタルガ如ク何ソトナレバ此ノ約束ノ成サレタルハアブラハムガ其ノ生土ヲ去リ神ノ命ヲ賜
ヘル地ニ至ラントセル時ナリシナレバナリ

此ノ書ハ異ナリタル時代異ナリタル場處ニ於テ又異ナリタル記者ニヨリテ記サレタル創世記埃及
記等ノ三十九篇ヨリ成立シ而シテ其中ニハ猶太人ノ初代ヨリ其ノ擒ニセラル、マデ殆ンド二千年
間ノ生活ノ全跡ヲ表ハセリサレバ吾人ハ茲ニ多クノ異ナリタル事柄ノ含有セラル、ヲ見ル即チ哲
學詩歌法律戲曲歴史及ヒ其他多クノ事柄ノ含有セラル、ヲ見ルナリ實ニ此ノ書ハ世界ノ一部分ニ
於テ一國民ノ表ハシタル思想ノ全体ヲ反映セル玻璃鏡ナリ吾人ハ之ニヨリテ以テ直チニ此國民ノ
生活ノ全跡ヲ窺ヒ得ルナリ總牒各國民ノ歴史宗教等ヲ研究セントスルニ當テハ吾人ハ先ヅ多クノ
文書ヤ古蹟ヤ其他多クノ外部の歴史ヲ探リ之ヲ稽查セザル可カラザル者ナルガ併シ猶太人ニ付テ
ハ此等ノ必要ナシ何ソトナレバ彼等ハ上述ノ「オールド、テストメント」ノ外稽查ス可キ一ノ書ヲ
保タス又探ル可キ一ノ古蹟ヤ碑類ヲ殘留セザレバナリ更ニ彼等ニ付テハ往古ノ記者ノ記スル所甚
ダ稀ナル程彼等ハ至テ小ナル且他國民ヨリ隔離孤居シタル國民ナリシナレバナリ但埃及アツシリ
ア及ヒ其ノ他ノ古國ニ於テ發見サレタル碑類中ニハ稀ニハ猶太人ニ關シテ記スル處ノモノモアレ
レ併シ其數ノ少ナキト又其ヲ解得スルコトノ困難ナルトハ未ダ一ツノ新シキ光ヲモ此ノ國民ノ歷
史上ニ與ヘタルコトナシ而シテ其中是迄解得セラレタルモノハ大抵「オールド、テストメント」ノ記

事ヲ確ムルモノナリキ

聖經ノ教ヘニ從ヘバ今日地上ニ住息スル無數ノ人種ハモト只一ツノ匹偶ヨリ創生シタルモノナリ
其ノ男ヲアダム(ヘブリエー語ニテハ單ニ人間ト云フ義)ト云ヒ其女ヲイヴ(生命或ハ生キタル
モノ、義)ト云フ而シテ此ノ教ハ物の科學モ言語學モ共ニ排斥スル能ハザル處ノモノナリ
諸其後(大洪水後ヲ云フ詳クハ創世記第二章ヨリ第八章ニ至ル間ヲ見ヨ)ニ至リテハ其子孫分レテ
三大種トナリタリキ但シ各々ノアノ三子セム、ハム及ヒヤベテ祖トス而シテ第一子即チセムヨ
リシテ所謂セミチツク人種ナルモノ始マリタリキ然ルニ歲月ヲ經ルニ及ンテ此人種ノ多クノ部落
或ハ分派ハ他ノ人種ト混淆シ逐ニ今日ニ至リテハ其ノ跡方サヘ見ル能ハザルニ至レルモノ多シ併
シ其ハ兎ニ角モ此ノ三大種(タイヒ其ノ中ノ一大種即チアリアン人種詳言セハノアノ第二子ヤベ
テヨリ生來セルモノハ最モ盛大ニシテ他ノ二者ヲ壓倒スルト雖モ)ハ今日尙生存スルナリ
余輩ハ前章ニ於テアリアン人種ヲ論セル中ニセミチツク人種ノ漸滅ニ付テ少々陳述セシガ併シ其
ノ言ノ如クタトヒセミチツク人種ハ全ク消滅スル時アルモ其創生シタル恒久不滅ノ觀念ハ決シテ
滅スルノ期ナカル可シ總テ人類ハ宗教ヲ以テ一大必要物ト認ムル以上ハ基督教ハ常ニ此ノ要求ヲ
供給ス可シ總テ人心ハ萬法ノ起源ヲ索溯スル以上ハヘブリエー人ノ有神的信仰ハ常ニ其ノ説明ノ
基礎タル可シ四海同胞的ノ愛情、自カラ他人ノ爲メ國家ノ爲メ更ニ人類全體ノ爲メニ身ヲ犠牲ニ
供スルノ精神等ニシテ人類ノ進歩上最モ必要ナル以上ハセミチツク人種ノ天才及ヒ其ノ神靈ニ感
化サレテ煥發セル觀念ハ常ニ吾人ノ感謝ヲ受ク可シ夫レ上ル昔ヨリ今日ニ至ルマデ世ニ現レタ
ル文明ノ形態ヤ實ニ様々ナリ併シ猶太人ノ文明ノ如ク永續シタルモノハ一モアラザルナリ見ヨ

ギリシヤノ文明ト云ヒロトマノ文明ト云ヒ其ノ勢ヲ振ヒシハ只僅カニ三世紀間ニ過ギザリシニ猶太ノ文明ハ殆ンド二千年間モ最モ開化シタル諸大國ヲ支配セルヲ嗜タトヒセミチツク人種ハ基督

教ヲ創生セルノ外一事モナス處ナカリシトスルモ未來永々ノ諸時代ハ常ニ其ノ恩惠ヲ感謝ス可シ但シ基督教ノ保持スル原道ハ永久不滅ノ原道ナレバ幾世ノ年代ヲ經ルモ決シテ人類ノ意識外ニ放逐サル、トナキモノナリ而シテ此カル原道ヲ保持セル宗教ヲ建設セルトニ付テハ吾人ハ常ニヘアリユ一人ニ感謝セザル可カラズ

諸テ大洪水後上述セルノアノ三子ニヨリテ世界ハ再ビ殖民セラレタリキ而シテ其詳細ヲ知ラントセバ宜シク創世記第十一章ヲ見ルベシ但シ此ノ章ハ人類ノ始源及ビ其ノ最古ノ殖民ニ付テ記セル最モ古キ且ツ最モ必要ナル記傳ノ一ナリ恐クハ古キト價値アルトニ付テハ右ノ章ニ適比シ得ル一記傳アラザル可シ而シテ此章ニ於テ吾人ハ猶太人ノ始祖ハテラト呼バレタル人ナルト及ビ彼ハカルテヤノウルト呼バレタル地ヲ去リカナノ地方即チ今日ノバレンスタイン地方ニ移住セントテハラン地方マテ來リシト等ヲ學ブナリ又次章ニ於テハテラノ死後エホバ神ハアブラハムニ左ノ命ヲ下シ賜フヲ見ル曰ヒ賜ヘラク

汝の國を出で、汝の親族に別れ汝の父の家に離れて我が汝に示さん其の地に至れト而シテアブラハムハ此ノ聖言ニ從ヒテ直チニ此處ハランノ地ヲ去リタリキ是レ即チ猶太人自身ニヨリテ記サレタル其ノ歴史之始メナリ而シテ吾人ハ此等ヨリシテ多クノ必要ナル事ヲ學ブ第一猶太人ノ祖先ハセミチツク人種ナルトナリ而シテ此ハ今日ニアリテモ其ノ言語ノ研究ヨリシテ明カニ知ラル、ナリ即チ其ノ言語ノアラビア語或ハシリア語等ノセミチツク語ニ於ケル類似ハ

ラテノ語ノギリシヤ語ニ類似シ土耳其語ノタルタリ語ニ屬スルヨリ明カナリ其ノ容貌ヤ体格ハ運命及ビ場所ノ變化又ハ他人種ト混淆スルト并ニ種々ノ氣候上ノ變化等ニヨリテ大ニ變化サレタルガ如シサレバ或ハ場所ニテハ甚ダ強健ナル丈高キ且ツ活快ナル人民ナルガ如ク又他ノ場所ニテハ身矮少ナル且ツ鬱鬱ニ沈メル人民ナルガ如シ

第二神命ニヨリテアブラハムガ其父之家其ノ生レ故郷ヲ去ル事ニ於テ吾人ハ歴史中始メテ一神的觀念ノイト明亮ニ現ルルヲ見ルナリ夫レ前諸章ニ於テ屢々陳述シタル如ク他ノ諸宗教ニ於テモ余輩ハ敢テ一神的觀念ノ表現ヲ見ザルニ非ズサレド其ハ只彼等ノ多神的觀念ノ裏面ニ隱匿タル薄光ナリキ而シテ此ハ總テ古代ノ宗教ニ通テテ現レタル一情態ナレバ併シ猶太教ニ於テノ如ク純粹高潔ナルモノハ一モナカリキ是レ實ニ公平ナル評眼ノ決シテ忽諸ニ附ス可カラザルノ一事實ナリサレバ自カラ左ノ問題ハ起ラザルヲ得ズ曰ク

アブラハムハ如何ニシテ此ノ觀念ヲ得又如何ニシテ此ノ觀念ハアブラハムノ生土ヲ去リタルノ日ヨリ今日ニ至ルマテ猶太人ノ歴史ヲ貫通シテ保存サレシヤ
博學ナル佛國人レナン氏ハ其ノ大著「セミチツク語ノ起源」中ニ於テ此ノ問題ニ答エントセシトハ既ニ余輩ノ前章中ニ陳述シタル處ナリキ而シテ氏ノ説ノ立場ハ「總テノセミチツク國民ハ上帝唯一ノ觀念ヲ保有シタリキ」ト云フニアリ其ノ言ニ曰ク
セミチツク人種ノ良心ハ透明ナレバ甚ダ狭ク其ハ能ク一ヲ包括シ得レバ多ヲ認識スルヲ能ハズ一言ニ云ハ、一神教ハ實ニセミチツク人種ノ總テノ性質ヲ説明スルモノナリ
然レモ始メヨリ後世總テノ人種ニ採用セラル可キ上帝唯一ノ觀念ニ臻達シタルハ實ニセミチ

ツク人種ノ榮譽ナリ此ノ人種ハ常ニ君主專治トシテ宇宙ノ支配ヲ認識シタリキ多神教ノ高大錯雜ハ彼等ノ知ヲザル處ナリキ彼等ヲ外ニシテハ一神教ヲ生出シタル一國民ダニアラズ常ニ幽玄ナル思想ノ途ヲ歩ム印度人スラ現今ニ至リテモ未ダ之ニ違ズギリシヤ人ノ知力ヲ以テスラセミチツク國民ノ助ケナクバ上帝唯一ノ觀念ニ人々ヲ導ク能ハザリキセミチツク人ハ嘗テ複數ニ於テ或ハ種類ニ於テ更ニ男女兩性ニ於テ神ヲ認識シタルコトナシ惟フニ女神ナル語ハヘブリユ一語ニアリテハ甚ダ野卑ニ聞ユル語ナルナランセミチツク人ノ神ノ觀念ヲ表ハスニ用ヒシ總テノ名ハ其形ハ文法上複數ナルモノスラ完全ナル純一ノ無上不可測的ナル有權者ノ觀念ヲ表セリ(五百五十六ページ)

右引用セル言ハ余ノ能フ丈直譯的ニ原書即チ佛文ノ書ヨリ譯出シタルモノナリ但シ此ノ言ノ合マレタル章ハ甚ダ興味アル章ニシテレナン氏ノセミチツク人種ハ其ノ起源及ヒ自然ノ状態ニ於テ一神のナリトノ説ヲ精述セル處ハ此ノ章ニアリ然シ余ハレナン氏ノ言テ一ツノ真理トメテ受クルコト能ハズ蓋シ其ノ理由ハ左ノ如シ

第一此カル言ハ歴史ノ真髓及總テ歴史ノ材料ニ反スルナリ吾人ハ歴史ヲ緝ク非常ニセミチツク諸國民ハアリアン諸國民ヨリモ更ニ大ニ偶像崇拜のナルヲ見ルナリ今アツシリア及ヒバビロニアノ宗教ヲ觀察スルトセンカ吾人ハ茲ニ何タルアリアンの宗教ヨリモ一層卑陋ナル偶像崇拜ヲ發見スルナランセイス講師曰ク主ナル三神ノ周圍ニアカデア人ノ迷信カ或ハセミチツク人ノ熱信カニヨリテ造ラレタル無數ノ鬼神ハ集メラレタリアツシユル、ナトサー、バルハ天地ノ大ナル神ハ六万五千餘アリト云ヘリ……又都府町村ニ祭ラル、無數ノ小神ノ外神聖ナル名號ヨリ造出セラル、新

シキ神アリ即チセミチツク人ノ語學上或ハ文學上ノ誤謬ニ其存在ヲ歸スル諸神アリ更ニキツムスマリヤ或ハロゴモルノ如キ外國ヨリ來レル神々モアリ然ルニ其等數多ノ神々ニテモ尙滿腹セデヤ堂殿禮典中ノ多クノ語句ハ又神ノ位ニ上サレタリキ(バビロニアノ神二百十六頁)其ノ他彼等ハ生キタル神トシテ又ハ神ノ住家トシテ殆ンド總テノ星辰ヲ崇拜シタリキ而シテ又茲ニハ甚ダ奇妙ニモ太陽ハ月ヨリ生來セル神ナリトシテ崇拜セラレタリキ是レ全ク他國民ノ神學即チ月ヲ以テ太陽ノ薄キ影トシ又其ノ配偶者トナス神學ヨリ全ク異ナレリ要スルニアツシロ、バビロニアノ宗教ニアリテハ宛モ印度ヤ埃及ニ於ケルガ如ク自然ノ總テノ事物ハ崇拜ノ目的物ナリキ實ニ山嶺小丘ノ如キモノマデモ神トシテ崇拜セラレタリキ然リ而シテ之レ管ニアツシリアバビロニアノ宗教ノミニ限レルニアラズフニシアノ宗教アラビア宗教否ナ總テ他ノセミチツクの宗教モ亦然ルナリ實ニ余輩ノ既ニ陳述シタルガ如ク歷史上ノ事實ハ全クレナン氏ノ説ニ反セリ而モ氏ハ尙ホ同章中ニ云ヘリ曰ク此ノ興味アル問題ノ更ニ精細ナル研究ヲ遂ゲラレタル時ハ吾人ハ恐クハフヒニシヤシリ

アバビロニア及ヒアラビア等ノ多神教ハ吾人ノ立場ヲ動搖セシムルニアラズ却テ強固ナラシムルモノナルコトヲ發見ス可シ

トレナン氏ノ膽大斗ノ如キ乎余輩泉然トシテ驚カザルヲ得ズ夫レ如何ニシテ總テセミチツク國民ノ現在ノ多神教ハ彼等ハモト一神教のナリシトコトヲ證シ得ルヤ余輩ハ之レヲ知ル能ハズレナン氏モ亦教ユル處ナクシテ已ミタリキ但シレナン氏ハアブラハムノ宗教ハ一神教のナリシトテ最モ之レニ重目ヲ置キ而シテ夫レヨリ總テノセミチツク國民ハ一神教的ニ組織セラレタル人種ナリトノ斷案ヲ導ク是レ果シテ能ク論理法ニ適ヘルモノ乎又歷史上ノ事實ニ應ゼルモノ乎ヘブリユ一

語ニテハ「女神ナル語ハ甚ク野卑ニ聞ユル語ナリ」ト云ヒタルベト其レハ總テノセミチツク人民ハ全ク女神ヲ信奉セザリシトノ證トナルヤ今日余輩ガセミチツク人種ノ古代史ニ付キテ得タル智識ハ斷ツテ其等ノ問題ヲ否定セシムルナリ見ヨフヒニシアハ自然ノ女性的要素ヲ崇拜スル親玉ナラズヤ又アラビア人ノ古代ノ信仰ヲ見ヨ其ハ更ニ甚シキニアラズヤ彼等ハ拜物教ノ最モ卑陋ナル形ヲ表セリ然リ而シテカノマホメツトガ能ク大勝利ヲ獲タルハ蓋シ此ノ形勢ニ乘シタルヲ以テナリ然ルニレナン氏ノ論ズルガ如ク若シアラビア人ノ古代ノ信仰ハ一神教的ナリシナランニハ如何カテ回々教ハ僅少ノ年月間ニ大功ヲ奏シ得ンヤ又アラビヤ人ニ新生命ヲ注入シ彼等ヲ驅テ世界征服的ノ遠征ニ發進セシムルヲ得ンヤ而シテマホメツト教其ノ物ハ全クアラビア人固有ノ觀念上ニ建設セラレタルモノニアラテ少數ノ固有ノ觀念ト多數ノ基督教の教義及ヒ訓誡ノ上ニ建立セラレタル猶太的一神教ナルナリ諸君若シコランヲ緋カンカ中ニマホメツトガ勉メテ反情的ナル古來ノ宗教的習慣ヲ排斥セルヲ見ン而シテ其等ノ習慣タル實ニ卑陋極マル多神教的ノモノニシテ木石スヲテモ崇拜スル様ナリキ要スルニアラビヤ人ノ眼面ニハ自然ハ一全体トシテ寫ラザリシナリ故ニ又其宗教的習慣ハ大ニレナン氏ノ言ヨリ異ナリシナリ

第二余輩ハセミチツク國民ノ思辨文學中レナン氏ノ言ヲ確ムル一言一句ダニアルヲ見ズ余輩ハ既ニキリシヤノ哲學的思想界中ニハプラトーンノ如キアリストトールノ如キ大哲學者ノ更ニ數多ノ哲學者ノ神性純一ノ漠然タル觀念ニ到達セルヲ見又埃及印度ノ宗教ニアリテハ此カル觀念ノ蹤跡ヲ發見シタリキサレドセミチツク國民ニアリテハ若シヘブリュー人ヲ省カバ彼等ノ此ル高妙ナル觀念ニ達シタリシ一例トシテ提出ス可キ一ノ事實ヲモ發見スル能ハズ惟フニ古代ニアリテ此カル

高妙ナル觀念ノ發達シ得ル處ハ僧徒ノ默想ヲ逞スル印度或ハ學者ノ直覺的ノ能力ヲ振フ希臘ニノ管テ自己ノ思辨ニヨリテ何ニタル高尙ナル觀念ヲモ現ハシタルヲナキセミチツク人種ニハアラザル可シ

蓋シ一神教ハ猶太人ノ主要ナル特性ヲ説明スルモノナリト云フニ於テハ余輩敢テレナン氏ニ反對セザレトサレバト猶太人ハセミチツク人種ノ全体ヲ代表スルモノナリト云フ可カラズ古代ノ猶太人ノ觀念ハキリシヤ人ローマ人ノ觀念ニ異リシ丈ク又フヒニシア人カルデア人ノ觀念ニモ異ナリシナリ實ニ古代ニアリテ猶太人ハ其觀念ニ於テハ毫モ他ノ人民ニ類スル處ナク又一モ與ヘ或ハ受クルトナク全ク隔離シタル特別ノ一國民トシテ現レシ者ナリサレバ猶太教ノ萌芽ヲ外圍ノ諸國教中ニ探ルハ到底牽強附會ノ説明ヲ免レザル可シ又十分他ヨリノ功擧ニ堪ユル確固タル説明ヲ得ル能ハザル可シ全體外圍ノ諸物ヨリ全ク異リタル物ハ自カラ吾人ノ胸裏ニ其ノ然ル所以ヲ探ラントノ意向ヲ生ゼシムルモノナレバ古代ノ諸宗教中ニ於ケル猶太教ノ狀態ハ亦均シキ意向ヲ吾人ノ胸裏ニ惹起セザルヲ得ズ何ントナレバ統テ他ノ諸宗教ハ悉ク偶像崇拜教多神崇拜教ノ黑雲ニ隱蔽セラル、ニ獨リ猶太教ノミ一條ノ紅光ヲ其中ニ灼發スレバナリ殊ニ其ノ國ノ小ナルヲ見其ノ人民ノ智識上体格上大ニ他國ノ人民ヨリ劣レルヲ見ルキハ吾人ハ益々奇異ノ感ヲ強シ而シテ「此ノ奇異ナル現象ハ如何ニシテ發現セシヤ」ノ問題ハ愈々吾人ノ腦裡ヲ攪動シテ已マザルナリ然リ而シテ吾人ハレナン氏ノ説明ニ從フ可キカ否ナ余輩ハ氏ノ說ニ對シテ一點偏見ヲ狹マザルモ尙此說ニテ満足スルヲ能ハズ蓋シ余輩ハセミチツク人種ノ總テノ分派ニ於テ一神教的ノ本能性ノ發露スルヲ見ザレバナリ否ナ之レニ反シテ何處ニ至ルモ偶像崇拜教多神教及ヒ其他アラユル自然崇拜教ノ主ト

シテ國民ノ信仰ヲ形成セルヲ見レバナリ
 サレバ「猶太人ハ如何ニシテ能クカ、ル高尙ナル觀念ニ臻達シタルヤ」テフ問題ハ實ニ甚ダ大切ナル問題ナリ然ルニ余輩ハヘンナン氏ノ十分ナル解説ヲ與ヘズシテ已ミタルヲ憾ム
 吾人ハ既ニ上帝唯一ノ觀念ハ屢々天啓ノ前助ナキ理性ニヨリテ得ラレタルトテ述ベタリキ併シカクシテ得ラレタル此ノ觀念ハ印度ニ於テモ希臘ニ於テモ更ニ又支那埃及ニ於テモ決シテ國民ノ宗教的生活ヲ感化スルコトナク只漠然トシテ又其ノ極意ヲ達曉サレズニ止リタリキサレド轉テ猶太教ヲ見ルトキハ吾人ハ大ニ事ノ情ノ彼等ト異ナルヲ見ルナリ茲ニ吾人ハ此ノ觀念ノ國民の宗教ノ基礎ヲ成スヲ見ル即チ神ハ國民ノ父ナルト同時ニ又支配者ナルヲ見ルナリ併シ猶太人トテモ亦偶像崇拜ノ傾向ヲ表サバリシニ非ズ其ハ彼等ノ歴史ニ徴シテ敢テ疑フ可カラザルナリ彼等ハ神ノ教導ナクシテ自カラ進メルキ屢々周圍ノ諸國民ノ如ク偶像崇拜ニ墮落セントシタリキ彼等ノ教導者タル人々スラ時ニ眞神ノ外ニ多クノ眞ナラザル鬼神ヲ崇拜セントセルコトアリキカノ猶太人中最モ賢明ナル人トセラル、ソロモンスラ尙ホ古代ノ世界ヲ束縛セル多神教の觀念ヨリ全ク免ル、能ハザリキサレド公平ナル論者ニシテ若シ自己ノ豫想ヲ確ムル爲ニアラテ暗黒ナル古代ニ於ケル人類進歩ノ實相ヲ知ラントテ古代史ヲ探ラシカ恐クハアラハム及ヒモ、セノ宗教深ク刺激スル處ロトナラザルモノハアラザル可シ今日ニ於テハカノ希臘世界ノ智慧及ヒ天才ノ如キナイル河畔ニ殘留セル古蹟ノ如キモノハ皆ナ均シク自然の原因ヨリシテ説明サル、ニ至レリサレドイスラエル人ノ宗教ニ至リテハ吾人ハ前者同様ノ方法ニテ解説スルヲ得ズ更ニ別ニ此カル弱小ナル且ツ總テノ國民中ニテ最モ賤ム可キ國民ヲ眞正ナル不可近ナル一神教、總テノ宗教ノ模範タル可キ純潔

ナル眞宗教、ヲ發現セシメタル原因ヲ探求セザル可カラズ嗚呼日ニ月ニキリシヤヤローマノ宗教ハ多神教ニ墮落セシニ獨リ猶太教ヲシテ其純潔ヲ保存セシメ常ニ自然トシテ他宗教ノ上ニ屹立セシメタル者ハソモ如何ナル勢力ナル乎常ニ猶太人ノ拜物の性向ヲ壓抑シテ昂起セシメザリシハソモ如何ナル勢力ナル乎總テ彼等ノ後世ノ歴史ヲ形成セシ感化力ハ何處ヨリ來リシ乎彼等ヲ導キテ詩篇ヤイザヤ書ノ如キ文學的敬神の生産物ヲ生出セシメタル天性ハ何處ヨリ賦與セラレタル乎諸君願クハ其等ノ書ヲ撮リテ以テ「イリヤツド」「オデセイ」「ヤベルシヤ」「ゼンド、アベスタ」ヤ其ノ他古代ノ聖書ニ比セヨ誰レカ彼等ノ間ノ差違ノ大ナルニ驚カザルモノアラシク而シテ如何ニセハ吾人ハ能ク満足ニ此カル差違ヲ説明シ得ルヤ單ニヘンナン氏ヤラツセン博士ノ如ク總テノセミチツク國民ハ自然的ナル一神の本能性ヲ稟有シタリシト云フヲ以テ此ノ難問ハ全ク解シ去ラレタルヤ否ナヨシ又猶太人ハ此カル本能性ヲ稟行シタリシトモ何故ニ此ノ本能性ハ彼等ニ於テノ如ク總テ他ノセミチツク國民ニ於テモ亦保存サレザリシヤ又猶太人ニ於テノ如ク純潔ナル宗教ヲ發生セザリシヤハ解ス可カラザルナリサレバ只其ノ形態ヲ變シタルノミニテ難問ハヤハリ難問トシテ殘レルナリ併シ其ハ兎ニ角モ吾人ハ歴史上古代ノ暗黒時代中ニ燦然トシテ電燈ノ如ク輝ク猶太教ヲ見及今日スラ日進ノ文明ハ常ニ數千年前猶太ニ於テ發現セシ觀念ノ影響ヲ蒙ルコト多キヲ見ル時ハ到底猶太教ヲ以テ或ル自然の現象結合ノ結果トナス能ハザルナリ然ラバ何トナス可キカ只上帝ヨリ降レル天啓トナス可キノミ夫レ人類ハ嘗テ一般ニ一統の宗教ヲ信受スルノ日アラシカ其ノ時現ハル、一統宗ハ必ズ猶太人ノ聖書中ニ顯現スル天啓の觀念ヲ以テ其ノ原道トナスナラシ若シ人類ハ嘗テ一書ヲ探テ以テ總テノ人々一般ニ生命ノ源府存在ノ基礎ナル無窮ノ大靈物ヲ讚

美し祈禱スルノ書トナスコアラソカ其ハ猶太人ノ詩篇ナラザル可カラズ決シテ印度ノ韋陀ニモ摩訶婆羅多ニモ又希臘ノイリヤッドニモ埃及ノ死人書ニモ更ニ佛教ノ法蓮華經ニモアラザル可シ要スルニ猶太教ハ永久宗教界ニ屹立シテ決シテ斃ル、ノ期ナカル可シ是レ其ハ始メテ獨一眞神ヲ發見シタルガ爲メニアラズ其ハ始メテ眞正ナル一神教ヲ建設シタルガ爲メナリ但シ一ツノ新シキ觀念ヲ發見スルコト其ノ觀念ヲシテ殆ソド四千年以上モ國民ノ生命、歴史ノ示導力トナラシムルコトハ全ク同一ノモノニアラザルナリ

夫レ此ノ觀念即チ上帝唯一ノ觀念ハ猶太教ノ始ニシテ又終リナリ否ナ猶太國民全體ノ眞生命ナリ其ハアブラハムヨリ湧出テ猶太人ノ歴史中ヲ貫流シテ以テ今日ニ至レリ否ナ猶太人ノ中ノミナラズ基督教徒及ヒ回々教徒ノ中ヲモ貫流セリ何ソトナレバ其等ノ二宗教ハアブラハム及ヒモーゼニヨリテ置カレタル基礎上ニ成立スルモノナレバナリマクス、ミュラー講師曰ク

回々教ハ疑ヒモナクセミチツクの宗教ノ一ニシテ而シテ其眞髓ハ一神教ナリサレドマホメツトハ自カラ其ノ一神教ヲ造リタルカ彼ハ神ノ一新名ダニ造リシカ否ナ決シテ然ラズ彼ノ目的トセシ處ハアラビアニアルセミチツク種族ノ偶像教ヲ破滅シ天使トカ神ノ息女トカ思男トカ呼バルル、處ノモノヲ芟除シ而シテ獨一眞神ニ於ケルアブラハムノ信仰ヲ復興スルニアリタリキ然リ而シテ又基督教ニ付テハ如何ソ基督教ハ一ツノ新シキ神ノ教ヲ宣傳センガ爲メニ來リシヤ彼及ビ彼使徒ハ神ノ新シキ名ヲダニ造リシヤ否ナ基督教ハ破壊センガ爲メニ來リシニ非ズ完成センガ爲メニ來リシナリ而シテ彼レノ教ヘシ神ハアブラハムノ神ナルナリ
同講師ハ更ニ進メテ曰ク

余輩若シ「アブラハムハ如何ニシテ當ニ神ノ原始的直覺即チ神自カラ總テノ人々ニ與ヘ賜ヒシ處ノモノヲ保チシノミナラズ又總テ他ノ諸神ノ排斥ニヨリテ以テ唯一神ノ智識ニ達シタルヤ」ト問ハル、ナランカ「其レハ特別ノ天啓ニヨリテナリシ」ト答ヘザルヲ得ズ眞理ノ父ハ己ガ豫言者ヲ選ビ而シテ雷鳴ヨリモ更ニ奇シキ聲ニテ彼等ニ話シ賜ヘリ全體神ノ吾人々類ニ話シ賜ル聲ハ或ル内蜜的ノ聲ナルヲ以テ或ハ漸々薄ラキテ聞ヘ難クナリ遂ニハ神聖ナル「アキセント」ヲ失ヒテ全ク俗界ノ人工的言語中ニ沈淪スルニ至ルモノナリサレド又神ノ撰ビ賜ヒシ人々ニアリテハ常ニ其ノ本來ノ調子ヲ失ハズシテ而シテ彼等ノ耳ニハ天ヨリノ聲ノ如クニ響得ルナリ「神聖ナル本能性」テフ語ハ科學的ナルコト多ク而シテ宗教的ナルコト少ナキ語ノ如ク聞ユレ併シ此ノ語ハ只僅少ノモノ、ミニ與ヘラル、特別天恵ニ對シテハアマリ適當ナル語ニ非ザルナリ又「特別ノ天啓」テフ語ヨリモ多ク科學的ナラザルナリ即チ理會シ易カラザルナリ
(論說集三百六十七頁)

マクスミュラー氏——總テ宗教上ノ事柄ニ關シテハレナン氏ヨリモ遙カニ善良ナル案内者又強健ナル獨立のナル自信ヲ保テル人——ノ解説ハレナン氏ノ解説ヨリモ論理ニ應ジ事實ニ一致セリ然リト雖レ氏ノ解説モ亦以テ完全ナリト云フ可カラス何ソトナレバ氏ハ猶太人ノ歴史中ニ雷鳴ヨリモ奇シク聞ユル神ノ聲ヲ他ノ諸宗教中ニ聞ユルカスカナル聲ヨリ區別スルコトヲ忘レテレバナリ夫レ神ハ總テノ時代ヲ通シテ人間ノ良心中又ハ思想ノ總テノ活動中ニ自カラ話シ賜ヒ又幾分カ自カラ顯現シ賜ヘルコトハ蓋シ余輩ノ疑ヲ容レザル處ナリ又最下等ナル宗教及ビ最下等ノ恐ロシキ且ツ腐敗セル古代ノ宗教的習慣スラ其中ニ眞理ノ小粒ヲ保有スルコトハ十分余輩ノ認識スル處ナリ然リ

ト雖モ猶太教ヲ撮テ以テ他ノ諸宗教ト同列ニ排スルハ余輩ノ快トセザル處否ナ不正ナリト感職スル處ナリ余輩ハ常ニ古代世界ノ最大奇觀トシテ猶太教ヲ見又其ノ歴史ヲ閱スルナリ
余ハ既ニ緒言中ニモ陳述セル如ク本書ニ於テハ埃及教韋陀教ノ如ク詳細ニ猶太教ヲ論述スルノ計畫ナキヲ以テ只其ノ主要ナル數點ヲ闡明スルノミニ止メ餘ハ他日ニ譲ル可シ然リ而シテ此ノ宗教ノ主要ナル點否ナ根本ノ土臺タルモノハ上帝唯一ノ觀念并ニ宇宙ノ創造者保護者立法者判者及父等ノ諸觀念ナリ而シテ今若シ其等ノ觀念ヲ關鍵トシテ以テ猶太人史ノ門戸ヲ開カバ如何ナル人トナモ敢テ其ノ偉觀ヲ窺ヒ難カラザルナリ

上帝唯一ノ觀念ノ次ニ來ルモノヲ上帝全能ノ觀念ナリトス抑々「元始に神天地ヲ創造りたまえり」トハ創世記ノ第一章第一節ナリ而シテ此ノ一節ニ於テ吾人ハ神ト萬有トノ關係ハ乃チ能造所造ノ關係ナルヲ見ル詳言セバヘブリユ一語ニテ「バラ」ト云ヘバ無ヨリ有ヲ造出スノ意ナレバ神ト萬有トノ關係ハ既備ノ材料ト其ヲ以テ働ク工匠トノ間ニ存スルガ如キモノニアラズ又万有ヲ以テ神ノ發現トナシ或ハ神ヲ以テ万有ノ精神トナス凡神哲學ノ教ユルガ如キモノニアラズ實ニ無ヨリ有ヲ創造スル獨立ノ創造者ト所造ノ有トノ間ニ存スル處ノモノナリ
然リ而シテ吾人ハ又此ノ觀念ハ猶太教ノ特有物ナルヲ見ナリ總テ他ノセミチツクノ宗教ニ於テモ否ナアラユル古代ノ宗教哲學ニ於テモ猶太教ヲ外ニシテハ吾人ハ一モ此ノ觀念ヲ有スルモノアルヲ見ズ吾輩ハ既ニ屬々云ヒタリキ多クノ古代ノ宗教ニ於テ吾人ハ神性純一ノ觀念ノ影ヲ窺得スト又アラトイヤアリストトールノ如キ哲學者ハ直覺的認識方ニヨリテ此ノ觀念ニ達シタリシトサレド、舊約書ヲ外ニシテハ何處ニ於テモ吾人ハ絕對的實在及ヒ創造者トシテ神ヲ觀念セルモノア

ルヲ發見スル能ハスアラトイヤアリストトールノ神ハ其ノ本性ノ純一ニ關スル以上ハヘブリユ一教ノ神ト異ナラザレ併シ彼等ノ神ハ絕對ナル無限ナル且ツ全能ナル神ニ非ザリキ彼（彼等ノ神ヲ云フ）ハ物質ノ預在ニヨリテ有限ナル領分中ニ追込ラレタリキ彼ハ預在ノ材料ヲ以テ建築スル建築者ナリキ實ニ其等ノ哲學者ハ物質預在ノ觀念ヨリ解脱スルヲ能ザリキサレバ彼等ノ哲學ハ一神論ト稱スルヨリモ寧ロ二元論ト稱ス可キ者ナリキ近世ニアリテハスピノサ又之レニ類スル「神性ノ觀念」ニ達シタリキ「吾人ハ又古代ノ宗教ニ於テ殊ニアリアンノ宗教ニ於テ同一ノ現象ヲ見ル」ト多シ例ヘバベンシヤノ宗教ニアリテハ物質ハ神意ニ逆フ惡力ヲ有スル永久の實在トセラレタルガ如シ又印度希臘等ニアリテハ諸神ハ單ニ自然的ノ生産物ニシテ只各ノ點ニ於テ多少優レタルヲ以テ人間ヨリ區別サレタリキ併シ尙ホ空間時間ニ制限サレタル更ニ無常及ヒ其ノ他ノ不幸ヲ免ル能ハザル者ナリキサレド眼ヲ轉シテ猶太教ニ向フキハ吾人ハ直チニ「神ハ各ノ點ニ於テ無限ナル又空間時間ニヨリテ制限サレザル者ナリ無ヨリ物質ヲ創造スル創造者ナリ」トノ高妙ナル壯嚴ナル觀念ニヨリテ眩惑サル、ナリ實ニ猶太教ハ其ノ根本ヨリ末ニ至ルマデ一神教ナリ言ヲ換ユレバ猶太教ハ「上帝ハ無限實在ニシテ而シテ其ノ勢力ハ創造的ナリ」トフ觀念中ニ生活スルモノナリ然リト雖モ「無ヨリ有ヲ生ズトハ人間ノ理性上全ク了解シ難キコトナリ」トハ吾人ノ常ニ耳ニスル處ノ言ナリ「無ヨリ來ル」物ナシ」トハ諸人ノ既ニ熟知スル處ノ言ナリ然リ而シテ此等ノ言若シ眞ナラシカトヒ猶太教ハ此ノ觀念（無ヨリ有ヲ造ルト云フ觀念）ヲ有スルヲ以テ他ノ諸宗教ヨリ異ナレリトスルモ其ノ異ナル處ニ何ノ價値モナキニアラズヤ是レ余輩ノ最モ注意セザル可カラザルノ點ナリ併シ此レニ付テ詳論センニハ勢已テ得ズ形而上學ノ範圍内ニ入ラザル可カラズ而シテ此ハ本論

ノ主旨ニ非ザレバ茲ニハ只少々論述スルノミニテ止ム可シ抑々無ヨリ有テ生ズルテフイノ了解シ難キモノナルハ余輩モ既ニ知ル處ナリサレド之レニ均シク物質ハ無始無終ニ存在スルテフイモ亦了解シ難キモノナルナリ物質ハ時間ト共ニ存在セリ否ナ時間ニ先テ存在セリト云フハ即チ時間ノアラザリシ處ニ既ニ物質ハ存在セリト云フハ是レ理性ノ教ニ反スルノ言ナリサラバ之レニ反シテ時間ハ物質ニ先テ存在セリ而シテ此ノ概念ハ理性ノ究意的概念ナリト云ハソカ吾人ハ物質ハ時間中ニ於テ無ヨリ創造セラレタルモノナリト云ハザルヲ得ズ然リ而シテ有神論ハ教ヘテ曰ク「神ハ無ヨリ物質ヲ創造リ又今日吾人ノ目撃スル總テノ美妙ナル秩序ニ自カラ進化シ得ルノ將成性ヲ之ニ賦與シ賜ヘリ」ト是レ吾輩ノ知ル何ニタル他ノ哲學ヨリモ更ニ合理的ナル而モアマリ了解シ難カラサル萬有ノ始源及ビ秩序ニ關スル一大哲學ナリ有名ナル佛國ノ大科學者キエツイエー氏曰ク「舊約書ノ第一章第一節ハ近世科學ノ全躰ノ柄ノ如キモノナリ」ト實ニ創世記ノ第一章ハ近世科學ノ結果ト撞着スルモノナリトテ屬々天啓教ニ反對スル論者ノ批難攻撃スル處ナレ併シ若シ十分ニ研究スレバ毫モ彼等ノ云フガ如キモノニ非ズ否ナ十分科學ト一致和合スルモノナリ然リト雖モ該章ハ一ツノ科學書トシテ記サレタルモノニアラズサレド吾人ハ尙ホ其レニヨリテ一ツノ科學上ノ觀念ヲ得ルナリ即チ「物質ハ神命ニヨリテ自カラ種々ノ形態ヲ現セル生命ヲ、發生シ得ル」エチルキ」ヲ賦與セラレタルモノナリ」トノ觀念是レナリ其ノ第十一節及ビ第十二節ニ曰ク

神言ひたまひけるは地は青草と實賦を生ずる草蔬と其類に従ひ果を結びみづから核をもつ所の果を結ぶ樹を地に發出すべしと則ち斯くなりぬ地青草と其類に従ひ實賦を生ずる草蔬と其類に従ひ實を結て自から核をもつ所の樹を出せり神これを善と觀たまへり

又第廿節ヨリ第廿五節ニ至ル間ニハ均シキ方法ニテ水中及地上ニ生息スル總テノ動物ノ發生スルヲ見ル曰ク

神言ひたまひけるは水には生物饒に生し鳥は天の穹蒼の面に地之上に飛ぶべしと……神言ひたまひけるは地は生物を其類に従ひて出し家畜と昆蟲と地の獸を其類に従て出すべしと即ち斯くなりぬ

而シテ余輩ハ其等ノ諸節ヨリシテ一事ノ十分明亮ニ現ハル、者アリト惟フ何ゾ即チ「物質ハ自カラ總テノ生物ヲ發生スルノ力ヲ有セリ」ト云フ事是レナリ實ニ余輩ハ茲ニ簡單ナル進化論ヲ見ルナリサレバ猶太教ハ其原始ノ形態ニアリテハ決シテ近世科學ノ研究ニ反對スルモノニアラズ其ハ總テノ科學者ニ公平ナル人々ヲ満足セシムル程ノ自由ヲ使用シテ以テ自然界ヲ研討スルノ目的ヲ與フルモノナリ然レモ唯物論ハ有神論ノ地位ヲ奪ヒテ竊立シ而シテ科學者ハ無神論ヲ主張スルニ至レルモハ彼等ハ常ニ自己ノ研究ノ範圍外即チ總テ實驗學ノ守ル可キ領分外ニ躍出テ直ニ形而上學ノ領分内ニ侵入スルモノナリ而シテカ、ル形而上學的科學ヲ以テハ有神論ハ到底一致知合スル能ハザル可シ否ナ攻撃ノ己マザル限リハ又常ニ之レニ反對ス可シ

上文ニ於テ余輩ハ十分上帝ノ唯一及ビ其ノ万有ニ於ケル關係ニ付テ陳述シタリキ是レ既ニ屬々口ニセシガ如ク此等ノ點ヲ十分明カニセザレバ猶太教ヲ完全ニ了解スルコト能ハザレバナリ換言セバモーセノ宗教ヲ完全ニ了解セシムハ先ツ其ノ始源及ビ基礎ヨリ論明シ初メザル可カラザレバナリ而シテ公平ナル讀者諸君ハ恐クハ余輩ノ以上ニ陳述シタル處ヲ一讀シタル後ハラツセン氏ヤンナン氏ノ說ニ賛成シテ猶太人ノ一神教ハセミチツク人種ノ一般ニ稟有スル本能性ヨリ生出シタル

モノナリト云ハザル可シ實ニ舊約書中ニ潜在スルガ如キ高妙ナル觀念ハ何處ヲ探グルモ決シテ發見スルコト能ハザルモノナリ
上帝ノ其他ノ性情ニ關スル猶太人ノ觀念ハ又均シク高妙純潔ナルモノナリサレド其等ノ觀念ニ付テハ後種々ノ古代教中ニ含有セラレタルモノトシテ其等ヲ比較對論スルノ章ニ至リテ詳論ス可クシバ茲ニハ容ス可シ

諸此レヨリ猶太教ノ人性學ニ付テ少々論述ス可シ抑々猶太人ハ常ニ人間ノ觀念ヲ全ク上帝ノ觀念ニ結合シテ以テ人類ノ始源自然ニ於ケル彼等ノ地位及ヒ上帝ニ對スル彼等ノ關係等ヲ解シタリキ而シテ吾人ハ茲ニ其等ノ觀念ニ付テ左ノ知識ヲ發見スルナリ

第一人類ハ此ノ地上ニ生息スル總テ他ノ生物ヨリ秀出シ一種特別ノ實在物トシテ萬有中ニ屹立スルモノナリ而シテ此ク人類ノ他ノ諸物ヨリ別離シ又自然ニ於テ此ク高等ナル地位ヲ占ムルハ蓋シ其始源ノ他物ニ異ナルモノアレバナリ余輩ハ既ニ全動物界ハ神命ニヨリテ直接ニ自然ヨリ發生セラレタルモノナルコトヲ教ヘラレタリ然ルニ人類ノ創造ニ付ハ左ノ如ク教ヘラル、ナリ創世記第一章二十六七八節ニ曰ク

神言給けるは我儕に象りて我儕の像の如くに我儕人を造り之れに海の魚と天空の鳥と家畜と全地と地に徧ふ所の諸の昆蟲を治めしめんと神其像の如くに人を創造りたまへり即ち神の像の如く之を創造り之を男と女に創造りたまへり神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生よ繁殖よ地に満盈よ之を服従せよ又海の魚と天空の鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ
夫レ人類ハ万物ノ靈長ナリトハ現今一人ノ敢テ疑團ヲ狹ムモノナキコナルカ併シ其ハ近世達實說

ノ教ユルガ如ク下等動物ヨリ生來シタルモノナルヤ否ヤハ未ダ確答シ難キ問題ナリサレド聖書ノ教ユル處即チ人間ハ神ニヨリテ地ノ塵ヨリ創造ラレタルモノナリトノ教ハ敢テ達實說ニ反對セルモノナリト云フ可カラズ何ントナレバ聖書ノ教ハ創造ノ方法ヲ説明セルモノニアラズ寧ロ創造ノ働キヲ指教スルモノナレバナリ

第二ニ人間ハ神ニ象リテ創造ラレ而シテ「アホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に嘘入たまへり人即ち生靈となりぬ」(創世記第二章七節)ルコトヲ學ブナリ但シヘブリユ一語ニテハ像ル事ヲシリムト云フ而シテ「シリム」トハ肖像或ハ影ノ義ナリ

人類ハ現今地上ニ住スル總テノ動物ノ上位スルモノナルコトハ余輩ノ既ニ陳述シタル處ナルガ然ルニ或ル科學者ハ下等ノ人種ヲ以テ猿猴屬ト同等ナラシメントセリ併シ此ノ企ハ全ク基礎ナキモノナリ是迄人獸間ヲ流ル、大河ハ嘗テ渡ラレシコトナケレバ尙ホ將來モ然ル可シ但シ身體ノ有様ニ於テハ人間ハ動物ニ類似スルモノニシテ又殆ンド同一ノ物理的法則ニ從フモノナリ即チ饑渴疾病衰弱死亡等ハ人獸トモニ均シク免ル、能ハザルモノナリサレド其靈性ニ於テハ明カニ真正ナル神ノ肖像ヲ寫スモノナリサレバ「人間ハ其身體ニ於テハ猿ニシテ而シテ其ノ精神ニ於テハ神ナリ」ト云フハアマリ眞理ヲ離レタル言ニ非ル可シ要スルニ人間ハ其身體ニ於テハ思想ノ高尚ナル且ツ最モ神聖ナル領分ニ臻達スルノ力量ト將成性トヲ有シ其ノ道徳力ト知力トニ於テハ多クノ天惠ヲ保タルモノナリ而シテ其等ノ天惠タル若シ適當ニ道理ニ從フテ發達サルレバ人間ヲ導キテ神座ノ前ニ來ラシメ、又若シ腐敗サル、カ或ハ罪惡ノ爲メニ使用サルレバ人間ヲシテ地上ニ於ケル惡魔ノ代表者トナラシムルモノナリ

以上ノ諸觀念ヨリシテ余輩ハ「神人ハ靈界ノ兩極ヲ作ルモノナル」ヲ知ル即チ神ハ無限ノ勢力及
ヒ智慧ヲ有スルモノトシテ、又人類ハ有限ナルレ併シ自由獨立ナルヲ得ル神聖ナル力ヲ賦與セラ
レタルモノシテ其ニ靈界ノ兩極ヲ成スナリ然リ而シテ此ク人間ヲ概念スルハ猶太教人性學ノ基礎
ナル也根本ナル也サレバ猶太教ハ宗教ヲ以テ神ガ人間ノ上ニ置キタル首械トナサズ之レニ反シテ
人間ヲ以テ自由ナル行動力トナシ又宗教ヲ以テ一種ノ約束トナシ而シテ此ノ約束ニ入ルト入ラザ
ルトハ全ク人間ノ自由ニアルトトナスモノナリ

實ニ人間自由ノ觀念(宗教的義務ヲ盡ス可キ力ヲ賦與セラレタルモノトシテ人間ヲ觀念スル以上)
ハ猶太教ノ眞髓ナリキ根本ノ基礎ナリキ靈界ニアリテハ彼(猶太教)ハ「各事皆ナ預定ノ原因ニヨ
リテ支配サル、モノナリ祈禱ノ如キハ全ク其功ナキモノナリ」ト主張スル宿命說ヲ知ラザリキ而
シテ此ク猶太教ノ如ク人間ヲ觀念スル「眞理ニ適ヘル」ハ左ニ掲カ、クルエワルド博士ノ言ニ
ヨリテ明カナリ曰ク

總テ世界ノ他部分ハ(最大ナル部分モ最少ナル部分モ)自由ナル有意的ナル進歩ヲ示サザルニ
獨リ人間ハ最大ノ變化ヲ經過セルモ未ダ嘗テ自由意志ヨリ離レタル「ナク常ニ己ガ精神ノ或
ル特殊ナル傾向ニ從ヘリ而シテ此ハ吾人ニ知ラレタル總テノ歴史ノ示シ又聖書全帙ノ證スル
處ナリ

夫レヨリ歴史ハ其ノ眞意ニ於テハ十分異ナル二部ニ分タル蓋シ吾人ハ人間ノ外宇宙ノ總テノ
部分ニ於テ常ニ只出現滅スル變化ノミナラズ又吾人ガ歴史ト稱スル總テノモノ、一特性タ
ル進歩的變化ヲモ見レ併シ其等ノ變化タル變化スルモノハ只受動的ノモノナルヲ以テ變化

自カラ變化スルノミナリ之レニ反シテ總テ人類ノ歴史ハ如何ニ異ナリタル性質ヲ表セルゾ」
實ニ人間ノ有スル完全ナル自由ハ總テ其ノ行爲上ニ大ナル影響ヲ及ボスモノナリ而シテ只カ、ル
力ヲ賦與セラレタルモノコソ詳言セバ自由ナル行動者トナリ己ガ意ニ適スル約束ニ入ルヲ得ル力
ヲ賦與セラレタルモノコソ眞ニ宗教的義務ヲ盡スニ適スルモノナレサレバカノ佛教ノ如ク萬事只
或預定不變ナル原因ノ結果ナリト教ユルキハ宗教ハ何ソノ味モナキ空ナルモノトナリ祈禱モ
讚美モ兒女ノ歌謠ト差違ナキモノトナルナリ實ニカ、ル教義ニ從ヘハ總テノ宗教的義務ハ用ナク
味ナキモノトナリ人間ハ只風ニ搖ラル、草木ニ異ナラザルモノトナル可シ併シエワルド博士ノ云
ヘルガ如ク人類歴史ノ總テノ部分ニ於テ人間ノ行爲ハ客觀的宇宙ノ他ノ現象ニ對比シテ其ノ絶對
的自由ヲ有セルヲ證明スルナリ

此ク人間ノ本性ヲ論定シタル後余輩ハ人間ト神トノ現實ナル關係則チ實踐的宗教ト稱セラル、モ
ノ并ニ人間ガ其伴侶及ヒ他ノ動物ニ對シテ有スル關係等ニ論及スベシ此等ノ問題ニ關スル教ハ往
古ヨリ傳ハレル種々ノ教書中ニ記サル、ガ而モ其最モ著名ナルモノヲ通例十誠ト稱セラル、モノ
ナリトス吾人ハ此十誠ニ於テ最モ完全ニ猶太法ノ全帙ヲ窺ヒ得ルナリ而シテ此等ハ甚ダ簡單ニシ
テ且ツ必要ナルモノナレハ余ハ左ニ掲載スヘシ但シ其八十節ニ分レ而シテ各節一誠ヲ保ツ是レ十
誠ノ稱アル所以ナリ

第一 我ハエホバ汝ノ神ナリ我ノ外汝ニ別ノ神アルヘカラズ

第二 汝偶像又上ハ天下ハ地或ハ地ノ下ノ水ノ中ニアル總テノ物ノ形ヲ造ル事ナカレ此等ニ拜
跪シ又崇奉スルコト勿レ夫ハ我エホバ汝ノ神ハ妬ム神ニシテ我ヲ惡ム者ニハ父ノ罪ヲ三四

代ノ子ニ至ル迄罰シ我ヲ愛ミ我律法ヲ守ル者ニハ千代ニ至ル迄恩ヲ與フンハナリ
第三 汝ノ神エホバノ名ヲ妄リニ言フ勿レ夫ハエホバ妄ニ其名ヲ云フ者ヲ罪ナシトセザレバ
ナリ

第四 安息日ヲ聖トセヨ汝六日ノ間働キ總テ汝ノ業ヲナスヘシ七日目ハ汝ノ神エホバノ安息ナ
レバ汝總テノ業ヲナス事ナカレ汝ノ子女僕婢家畜及ヒ門内ニアル異邦人モ又然リ夫ハエホバ六日
ノ間ニ天ト地ト海ト其中ニアル万物ヲ造リ七日目ニ休ミタレバナリ故ニエホバ安息日ヲ祝シテ之
ヲ聖日トセリ

第五 汝ノ父ト母ヲ敬エ斯ハ汝ノ神エホバノ汝ニ賜タル地ノ上ニ於テ汝ノ命ヲ長クアラシメン
ガ爲ナリ

第六 殺ス勿レ

第七 姦淫スル勿レ

第八 偷盗ム勿レ

第九 隣人ニ就テ偽證ヲ立ル勿レ

第十 隣人ノ家ヲ食ル勿レ隣人ノ妻ト其僕婢牛驢馬又總テ隣人ノ物ヲ食ル勿レ

此教訓ハ通例ニ分タル而シテ第一部ハ最初ノ四誠ヲ含ミ第二部ハ次ノ六誠ヲ含ハス
第一誠ニ於テハ吾人ハ上帝ノ唯一ナルヲ敬テ又多神教ヲ崇信スヘカラサルヲ命セラル第二誠
ニ於テハ偶像ヲ崇拜ス可カラサルヲ命セラル第三誠ニ於テハ神ノ名ヲ崇ヒ妄ニ之ヲ用ユヘカラ
ザルヲ命セラル第四誠則チ第一部ノ終リニ於テハ安息日ヲ聖日トシテ守ルベキヲ命セラル、

ナリ第二部ノ第一誠ハ吾人ノ兩親ニ對スル義務ヲ教ユ第二誠ハ他人ノ生命ヲ害スルヲ禁シ第三
誠ハ姦淫スルヲ禁シ第四誠ハ如何ナル境遇ニアリテモ決シテ他人ノ財産ヲ盗ムヘカラサルヲ
命シ第五誠ハ隣人ニ對シテ虚言ヲ吐クヘカラサルヲ命シ即チ如何ナル虚言ヲモ吐クヘカラサル
ヲ命シ第六誠則チ最終ノ誠ハ貪ルヘカラサルヲ命ズルナリ
抑モ十誠ノ二部ニ分タル、如クニ即チ人間ト神トノ關係及ヒ人間ト他動物トノ關係ノ二種ニ分タ
ルガ如クニ猶太人ノ總テノ律法ハ又同様に分タル、ナリ實ニ十誠ハ猶太教全體ノ綱領ナリト云フ
ヘシ而シテ吾人若シ常ニ此二種ノ區別ヲ眼前ニ保タハ明カニモトゼ律法ノ全組織ヲ了解スルヲ
得ルナリ但シ猶太教ハ決シテ一瞬間ダモ其等二箇ノ高尚ナル觀念ヲ失ヒシトナシ彼等ハ常ニ此等
ニクノ觀念ノミヲ見タリキザレバ其他ノ物ニ至リテハ余リ注意セザリシナリ殆ント無頓着ナリシ
ナリ是レ猶太教ハ自然ヲ嫌惡セシカ爲メニアラズ又拜火教或ハ其他ノアリアン宗教ノ如ク自然ト
物質ヲ以テ惡ク成リ立チタルモノトナセシ爲メニアラズ是等ノ觀念ハ全ク猶太教ノ精神ノ有セサ
ル處ノモノナリ又或ル學者ハ猶太教ヲ以テ狹隘ナルモノトシ自然ト人間トノ間ニ調和ヲ作ル
ニ於テハ遙カニギリシヤニ劣リト云ヘリ是レ決シテ排斥サル、能ハザルノ言ナリギリシヤ人ハ智
力上遙カニ猶太人ニ優レタリキ而シテ猶太人ハ其歴史中曾テギリシヤ人ノ如ク高妙ナル哲學的精神
ニ達シタルコトナシタトヒ其ハ古代ニアリテハフアイロテ生シ近世ニアリテハスピノザテ生ゼシト
雖モ併シ其等ノ人々ハ既ニ猶太人ノ智力的範圍外ニ脱出シ而シテギリシヤガ古今未曾有ノ觀念ヲ設
立シタル世界中ニ入込シモノナリキ併シ夫ハ兎モ吾人ハ猶太人ノ遺書中ニ於テ哲學ヲ希望ス
ベカラス猶太教ハ最モ宗教的ナル宗教ナリ哲學的ナル宗教ニアラズサレバ其究竟ノ價值ハ決シテ

哲學的標準ヨリ批定スベカラズ必ス宗教的標準ヨリセサルベカラス

吾人ハ常ニ舊約書中ニ見ルカ如ク猶太教ハ常ニ己カ造出セル二大觀念ヲ失ハザリキ猶太教ニアリ
テハ人間ハ神ノ臣僕及ヒ奴隸ナリキ而シテ彼等ノ義務ハ日夜神ニ奉仕スルニアリタリキ其他ノ事
ニ至リテハ全ク個人自然ノ趣味ニ委テラレタリキ而シテ法律及ヒ神聖ナル十誡ハ宛モ大氣ノ如ク
ニ何處ニ於テモ常ニ彼等ヲ圍繞シタリキ彼等ノ大立法者タルモーセ曰ク我等ノ神ハ惟一ノエホバ
ナリ汝心ヲ盡シ精神ヲ盡シ力ヲ盡シテ汝ノ神エホバヲ愛スベシ今日我が汝ニ命スル是等ノ言ハ汝
之レテ其心ニアラシメ勤メテ汝ノ子等ニ教エ家ニ産スルキモ路ヲ歩ム時モ寢ル時モ起ル時モ之レ
ヲ語ルヘシ汝又之ヲ汝ノ手ニ結ビテ號トナシ汝ノ目ノ間ニテキテ認トナシ又汝ノ家ノ柱ト汝ノ門
ニ書記スベシト(申命記六章四節——九節)而シテ神人間ニ於ケルカ、ル嚴密ナル關係及交通ハ自
ラ吾人ヲシテ吾人ヲ圍繞スル宇宙ノ万物ヲ思考スルノ時ナカラシムル者ナリ併シ猶太教ハ自然
界ニ關シテ一モ高尚ナル觀念ヲ發現セザリシニアラス否ナ其詩人が其注意ヲ自然界ニ向ケタル
ハ決シテキリシヤノ詩人ニモ劣ラサル程ノ高妙ナル觀念ヲ煥發シタリキハムボルト氏其著「宇宙
論」中ニ云ヘリ曰ク

自然ノ寫實トシテハ「オールド、アスメント」ノ諸書ハ彼等ノ著述セラレシ地方ノ性質ノ眞
實ナル反映ナリ單一ノ詩能ク全宇宙ノ形像ヲ表ハストハ敢テ云ハシ難キノ言ニアラス活眼以
テ詩第四百篇ヲ達觀セヨ

汝光をこるものごとくにまどひ天を幕の如くにはり水のなかにあのれの殿の棟梁をおき雲を
あのれの車となし風の翼にのりあるき、地を基のうへにおきて永遠にうごくことなからしめ

たまふ、エホバはいづみを谷に湧き出したたまふ、其の流は山のあひだにはしる、かくて野の
もろくの獸類にのましむ野の驢馬もその渴をやむ、空の鳥もそのほどりたすみ樹梢の間よ
りさそづりうたふエホバは草をはえしめて家畜にあたえ、田産をはえしめて人の使用にそな
へたまふ、かく地より食物を出したたまふ、人の心を歡しむる葡萄酒、ひどの顔をつややかな
らしむるあぶら、人のこゝろを強からしむる糧どもなり、エホバの樹とその植たまへるレバ
ノンの香柏とは飽足ぬべし鳥は其中に巢を作り鶴は松をその棲とせり

余輩ハ實ニ此かる短少なる叙情詩中に僅少の感想ニテはられたる全宇宙(天地)ヲ見ルニ於テ
一驚を喫セザルヲ得ズ茲ニ太陽ノ燦然トシテ東山ニ登ル朝ヨリ灼然トシテ西山ニ没スル夕マ
テ其ノ間ニ於ケル人々ノ靜ナル勞働ハ自然ノ元素ノ活潑々トシテ運動已マザル生活ト對比セ
ラル、ナリ然リ而シテ感想中ニ於ケル此ノ自然的現象雙方ノ活動ノ對照ト概括及ヒ處トシテ
アラザル處ナキ而モ視ル可ラザル全能者(能ク此ノ世界ヲ改造シ又壞シテ塵トナスヲ得ルモ
ノ)ニ付テノ此ノ回想(神ノ方ヘ己ガ心ヲ向ケテ神ヲ見ル意)ハ實ニ詩人的着想ノ絢爛温雅ナ
ル形態ヨリモ寧ロ峻嚴高崇ナル形態ヲ造ル(宇宙論第二卷五十八五十九頁)

余輩ハ前ニ再ビ立歸リテ律法ノ二種類即チ神聖ナル律法及ヒ人間ノ律法ニ付テ論ズ可シ但シ神聖
ナル律法トハ人間ノ神ニ對シテ保ツ義務ニ關スル律法條例及ヒ戒律等ヲ云ヒ人間ノ律法トハ人々
相互ノ間ニ存スル義務ニ關スルモノヲ云フ

第一神聖ナル律法ヲ執行スルモノハ教權ヲ有スル二種ノ人々即チ通例僧侶及ヒ利未ト稱セラル、
人々ナリキ而シテ又此等ノ人々ノ上ニ立チ彼等ノ上ニ權ヲ有スル一人ノ高僧アリキ高僧ハ即チ神

ノ前ニ立ツ猶太人ノ唯一ノ代表者ニシテ精神上ニ於テモ身體上ニ於テモ共ニ完全純潔ナル人ナラザル可カラザリキ而シテ彼レノ最大ナル職務トスル處ハ神ト猶太人民トヲ和解シ又猶太人民ノ罪ヲ贖フニアリタリキ故ニ彼ハ毎年一度「聖中ノ聖ナル處」ニ至リテ人民ノ罪惡ヲ贖ハンガタメニ犠牲ヲ供ヘタリキ彼ハ又供獻式ヲ執行スルニ當テ若シ欲スルナレバ普通ノ僧侶ノ職ヲ執ルヲ得タリキ「僧侶ノ職ハ供獻式ヲ掌リ律法ニ能ク順從シ又之レヲ人民ニ教ヘ其ノ他堂殿ニ關スル種々ノ事務ヲ執ルヲナリキ

利未ハ僧侶ノ次ニ位スルモノニシテ其職モ亦下等(比較的)ナリキ其ハ甚ダ基督教會ニ於ケル會吏ニ類シタリキ但シ基督教會ニ於テ其ノ役者ノ順序ヲ分チテ監督會長會吏ノ三階トナスハ蓋シ余輩ノ猶太教會ニ於テ見ル處ノモノト同一ノ順序ヲ採用シタルモノナリ

總テノ僧官ハ悉ク一支派即チ利未ノ支派中ヨリ撰出セラレタリキ但シ利未ハヤゴブノ第三子ニシテカナンノ地ノ十二ノ支派ニ配分サル、時ニ一ノ遺産モ與ヘラレザリシ人ナリ

猶太人ノ禮拜ノ中心ハ「供獻」ノ觀念ナリキオーケル博士曰ク「通例供獻ノ本性ハ人間ガ其ノ心身ヲ神ニ獻ケタル精神ヲ外部ノ働キニ表スヲナリ」余輩ハ既ニ學ビシ如クヘブリユ「人ハ全ク「神」ノ觀念ニテ包圍サレタリキ彼等ノ存在モ彼等ノ家族モ彼等ノ財產モ皆チ彼等ニ屬スルモノニアラデ神ニ屬スルモノナリト考ヘタリキ而シテ此ノ外部的證據トシテ彼等ハ年々其ノ財產ノ幾分ヲサキテ之レヲ祭壇ノ上ニ燒クカ又ハ僧侶ナソノ日夜神ニ奉仕スル人々ノ衣食ヲ給スル爲メニ獻ケザルヲ得ザリキ

供物ハ通例有血供物無血供物ノ二種ニ分タレタリキ而シテ有血供物トハ動物供物ヲ云フナリレナ

ン氏及ビ或ル他ノ學者ハ暗ニ人身犧牲モ亦モーゼス律法ノ命ズル處ナリト論ズレ併シ此ノ言ハオーケル氏ノ云ル如ク實ニ癡狂的ノ言ナリ生ナガラ小兒ヲ焚キテ神ニ獻ゲナソスル事ハセミチツク民族ニアリテサマデ奇異ナルコニアザリシカド併シ猶太ノ律法ニテハ明ニ之レヲ嚴禁セリ申命記第十二章三十一節ニ曰ク

汝の神エホバに向ひては汝然す可らず彼らはエホバの忌且ツ憎みたまふ諸の事をその神にむかひて爲しその男子女子をさへ火に焚きてその神々に獻げたり

有血供物トハ總テ生命ト血液ヲ有スル供物ヲ云ヒタリキ而シテ鳥獸ノ多數ヲ食スルコトハ猶太法ノ禁ズル處ナリシテ以テ彼等ハ最良清淨ナル鳥獸ヲ供フルニ大ナル注意ヲ要サザル可ラザリキ又血ハ舊約書ノ教ヘニヨレバ動物ノ靈魂及ビ生命ナルヲ以テ有血供物ハ無血供物ヨリモ更ニ功徳アルモノト考ヘラレタリキ而シテ清淨ナル鳥獸中ニシテ最良ナルモノハ獸ニアリテハ牡牛及ビ羊ノ類ニシテ鳥ニアリテハ鳩類ナリキ「供物ハ供フル人ノ意志ト貧富及ビ場合ノ必要トニ委セラレタリキサレバ貧シキモノニアリテハ費用ヲ輕フセンガ爲メニ斑鳩ノ一對カ又ハ羊ヲ用ヒタリキ

無血供物ハ通例乾カシタル植物類ナリキ即チ麩粉小麦及ビ其他パレスティン地方ニ於テ多ク産スル植物ナリキ

飲料供物ハ主トシテ酒類ナリキ而シテ通例前二種ノ供物ト共ニ用ヒラレタリキ
供獻式ハ通例左ノ順序ニ從ヒテ執行サレタリキ(一)祭壇ノ前ニ供物トスル鳥獸ヲ持出ス(二)其ノ鳥獸ノ上ニ僧侶ノ手ヲ置ク(三)其鳥獸ヲ殺ス(四)其ノ血ヲ祭壇ノ周圍ニ潑散ス(五)其ノ肉ヲ祭壇上ニテ焚ク(是レナリ(第一)供物ヲ祭壇ノ前ニ持出ス時ニハ供フル人モ共ニ其處ニ至ル次ニ供フル

人ハ其手ヲ供物トスル鳥或ハ獸ノ上ニ置ク而シテ其意ハ「今ヤ犧牲ニ供スル此ノ動物ハ我が罪惡ノ代贖者ナリ」ト云フヲナリ夫レヨリ其ノ動物ヲ殺ス蓋シ猶太法ニヨレハ殺シタル動物ノ臟腑ヲ直接ニ吟味セザル可カラザレバナリ次ニ僧侶ハ其血ヲ盤ニ盛り而シテ之レヲ祭壇ノ周圍ニ潑散ス蓋シ既ニ述シ如ク猶太人ハ動物ノ生命ヲ以テ血液中心ニ潜在スルモノト考ヘシテ以テ其血ヲ取去ルヲハ即チ其生命ヲ取り去ルノ意ナリキ而シテ舊約書ノ教ニテハ罪人ハ其ノ生命ヲ神前ニ沒收セラシル可キモノナルヲ以テ今其ノ代リトシテ動物ノ生命ヲ獻グルハ最モ善キ満足ナル方法ナリト考ヘタリキ而シテ罪人ハ己ガ罪惡ヲ懺悔シ其所有ノ禽獸ヲ失フ事ニテ己ガ財産ヲ神ニ獻グルヲ表ハスヲ以テ其ノ動物ノ肉ハ清ク洗ハレタル後祭壇上ニテ焚レタリキ

供獻式ノ全骸ハ利未記中ニ記サレタリサレバ猶太教ヲ完全ニ研究スルニハ其書ヲ十分ニ稽查スルハ最モ必要ナルヲナレモ其ハ本書ノ紙數ノ許サマル處ナレバ如何トモス可カラズ

抑々モ「ゼ律法ノ全骸ハ古代ノ世界ガ今日ニ傳ハタル智識ノ寶庫中最モ豐富ナルモノノ一ナレバ否ナ最モ豊富ナルモノナレバ其テ十分ニ論述スルヲハ到底本章ノ企及バザル處ナリサレバ其第一部ハ暫ク措テ論セズ而シテ些カ第二部即チ人々互相ノ間及ビ他動物ニ對シテ有スル關係ニ付テ論述スル處アル可シ

猶太人ハ其ノ歴史ノ初代ヨリシテ全ク周圍ノ諸國民ヨリ別離シタリキバレスタイニ於テ十二ノ支派ノ建設セラレタル後彼等ハ外國民ト交際スルヲ甚ダ稀ナリキ否ナ偶像崇拜ノ惡習ヲ傳染サレノコトヲ恐レテ交際セザルヲ却テ幸ナリトシタリキサレバモ「ゼ律法」此ノ部分ニ於テモ別ニ外

國人ニ對スル義務ニ付テ命ズル處アルヲ見ズ律例ノ最多數ハ只猶太人同士ノ關係ヲ整理スルモノノミナリサレド尙ホ彼等(彼等自身モ亦嘗テ埃及ニアリシモハ)一ツノ異國人ナリシヲ以テ)ハ彼等ノ門内ニ入り來レル異邦人ニハ甚ダ親切ナル丁寧ナル待遇ヲ與フ可キヲ命ゼラレタリキ

余輩ハ既ニ十試中ノ第五誠(即チ第二部ノ最初ノモノ)ニ於テ人間タルモノノ第一ノ義務ハ兩親ヲ尊ブヲナルヲ學ベリ然リ而シテ此點ニ於ケルモ「ゼ律法」ハ甚ダ嚴正ナリキ否ナ嚴酷ニ過ギタリキ乃チ兩親ハ其子ノ生命上ニスラ權利ヲ有シタリキ若シ其子放肆背悖ニシテ等彼ノ命ニ從ハサルトキハ彼等之レヲ邑ノ長老等ニ訴フ而シテ長老等ハ其子ヲ吟味シタル上死ニ適スルノ罪アルヲ宣告スルハ邑ノ人々集リ來リ石ニテ彼ヲ擊チ殺シタリキ(申命記第二十一章ヲ見ヨ)

兩親ヲ尊ブノ義務ニ次クモノヲ長老ヲ尊ブ義務ナリトセリ利未記第十九章三十二節ニ曰ク「白髮ノ人の前には起あがるべしまた老人の身を敬ひ汝の神を畏る可し我はエホバなり」

家族ハ社會ノ起點即チ基礎ナリト考ヘラレタリキ而シテ夫タルモノハ其長ニシテ「自然ノ理」妻ハ其レニ次ギタリキ併シ彼等ハ一夫一婦主義ヲ奉ゼシ人民ニハアラサリキ「マトヒ」彼等ノ聖書ノ極ク初ニハ神ハ一人ノ男ト一人ノ女ヲ創造リ而シテ彼等ハ各々獨立ナル自給的ナル一個人トノ互ニ關係セシヲ教ユレモ後等ハ聖書ノ始メニアル法則ニ從ズシテ宛モ他ノ古代民族ノ如ク一夫多妻主義ニ從ヒタリキ然リ實ニ然リ一夫一婦主義ハ只基督教ヨリ流レ出デタルモノナリ一宗教モ「ノ哲學」モ基督教ノ如ク社會的目的ノ標準ヲ起シタルモノハナシ

奸通ハ甚ダ嚴シク罰セラレタリキ即チ此ノ罪ヲ犯セシモノハ男女共ニ死刑ニ處セラレタリキ併シ一夫多妻主義ハ實行サレタリシヲ以テ彼等ノ抱キシ奸通ノ觀念ハ近世ノ基督教徒ノ抱ケルモノニ

比シテ甚ダ狹隘ナリキ今日基督教ニアリテハ夫ハ一人妻ハ一人ニシテ若シ此ノ外ニ孰レニテモ何タル關係ヲ作クルハ其ハ奸通ナリト考ヘラル、ナレト併シ猶太教ハ夫婦ノ關係ヲ作ルニ於テハ基督教ヨリモ大ナル自由ヲ人々ニ與ヘタリキ

子ヲ持ツトハ特別ノ天恵ナリト考ヘラレタリキサレバ子ナキハ其ノ家ニ對シテ一ノ大不幸ナリトセラレタリキ蓋シ家名斷絶スレバナリ吾人ハ又同一ノ感想ヲ印度及ビ日本支那等ニ於テモ發見ス殊ニ日本支那ニアリテハ甚ダ強シ

父ノ遺産ハ總テ男子ニ分配サレ女子ハ只嫁入ノ時ニ少々與ヘラル、ノミナリキ而シテ長男ハ常ニ二倍ノ配分ヲ受ケタリキ余輩ハ又之レニ類スル制度ヲマヌーノ法典ニ於テモ見ル同書第九章第六十五節ニ曰ク長男ハ獨リ一物モ殘サズ父ノ遺産ヲ受ク可シ而シテ其ノ他ノモノハ宛モ彼ヲ父ノ如クニシテ彼ノ供給ヲ受クルヲ得トサレド惟フニ此ノ言バ只長男ニ比シテ次男以下ノモノノ權利少ナキヲ示サンガ爲メニ云ヘルモノニシテ實際ハ常ニ其ノ如クハアラザリシナラン何ントナレバ其ノ前ノ或章ニ左言アレバナリ

父母ノ死シタル後ハ兄弟集リテ其遺産ヲ分配ス可シ
家族ニ關スル猶太人ノ思想中ニハ一モ著シキ者アルヲ見サレトモ尙他ノ古代國民ニ比シテハ尙尙ナ
ル觀念ヲ抱有セルヲ見ルナリ諸彼等ノ一夫多妻ナリシ結果トシテタトヒ家族ハ多クニ分レシト雖
モ尙分ツ可カラザル一躰ナリト考ヘラレタリキ即チ父ハ長トシテ本妻ハ其ノ次ニ立ツモノトシテ
總テ他ノモノハ彼等ニ從ヒタリキ又猶太人ハ毎年三回必ズエルサレム宮殿ニ上ラザル可カラザリ
キ蓋シ律法ノ命ズル義務ヲハマシ供物ヲ獻ゲンガタメナリ而シテ此ハ猶太人ハ大ナル清淨ヲ以テ

其ノ家族ノ全體ヲ保チシヲ十分吾人ニ確信セシムルナリ

家族ノ關係ノ次ニ來ルモノヲ社會ノ一分子トシテ各人ガ隣人及ビ其ノ國民ニ對シテ有スル關係ナ
リトスヘブリユ一ハ固ト自由ナル人間ナリキ詳言セバヘブリユ一ハ奴隸トスルユトハ國法ノ
許サル處ナリキサレド或ル財政上ノ理由ヨリシテ若シ猶太人自カラ奴隸トシテ務メンコトヲ乞フト
キハ六ヶ年間然カナスヲ許サレタリキ但シ六ヶ年ハ六工作日ニ應ズルナリ(詳クハ出埃及記第二
十一章ヲ見ヨ)人ヲ拐帶シ又之レヲ買ルモノハ死刑ニ處セラレタリキ(詳クハ出埃及記第二十一
章第十六節ヲ見ヨ)

又彼等ノ同種族人ニハ利子ヲトリテ金ヲ貸スコトヲ禁セラレタリキ出埃及記第二十二章二十五節
ヨリ二十七節ニ至ル間ニ曰ク

汝もし汝どもにもあるわが民の貧き者に金を貸す時は金貸のごとくなすべからず又これより
利足をとるべからず汝もし人の衣服を質にとらば日のいる時までこれを歸すべし其はその
身を蔽ふ者は是のみにして是はその膚の衣なればなり彼何の中に寝んや彼われに顧らば我き
かん我は慈悲ある者なればなり

質入の土地ハ五十年ヲ經ル後ハ再ビ前ノ持主ニ歸サレタリキ利未記第二十五章十節ニ曰ク
かくして其の第五十年を聖め國中の一切の人民に自由を宣告めすべしこの年は汝らにはヨベ
ルの年なりちんぢら各々その産業に歸り各々その家にかへるべし

此ク五十年ヲ經タル後ニ統テノ物ヲ其前ノ持主ニ歸サシムルユトハ諸家族及ビ其國ヲシテ各原始
ノ状態ヲ保存セシメタリキ而シテ此ノ制アルヲ以テ人々ハ己カ必要ヲ超テ富ヲ作ルコトヲ得ザリキ

サント又極貧ニ陥ルナカリキ是レ即チ米國ニアリテハヘンリー、ジョーシ氏ノ如キ又佛國ニアリテハブルードン氏ノ如キ社會主義ヲ抱ク人々ノヘブリュー人ノ社會立法ヲ稱讃スル所以ナリ返報ノ律法ハ甚ダ嚴酷ナリキ利未記第二十四章二十節ニ曰ク

即ち挫は挫目は目齒は齒を以て償ふべし人に傷損をつけしごとく自己も然せらる可きなり

余輩は本書ニ於テハ以上ニ陳述シタルヨリモ更ニ精密ニイスラエル人ノ歴史律法及ヒ宗教的觀念ヲ論述スルヲ得ズ其等ハ甚ダ廣大ナル問題ニシテ十分研究スルニハ多クノ歲月ヲ要シ十分説明スルニハ多クノ書冊ヲ要スルモノナリサレバ以上ニ余ノ説明論述セント試ミタル處ハ勿論只猶太教ノ依テ以テ永久ニ立ツ處ノ根本的基礎的觀念ノミレ今ヤ余ハ本章ヲ終ラントスルニ當テ猶太教研究ノ必要ニ付テ一言センカ蓋シ猶太教ハ永久學者ノ研究ニ對シテ興味アル有益ナル問題タルノ價値ヲ失ハザル可シ然リ而シテ其ノ原因ハ主トシテ左ノ二事ニヨル

第一猶太人自身ノ故ニヨリテナリ其ノ人類ノ歴史中ニ占有スル地位ニヨリテナリ其發生成熟セシメタル觀念ニヨリテナリ實ニ猶太人ハ人類中ニ發現スル最モ奇偉ナル現象ノ一ナリト云ハザル可カラズ彼ハ永久ニ斃ンザル可シ否ナ永久ニ生ク可シ見ヨ今日ノ猶太人ヲ彼ハ四千年前ノ祖先ニ均シク又一奇偉ナル現象ニアラズヤ彼ハ文明ノ歴史上一大特筆ス可キ偉觀ヲ發現シタリキヤロシヤロシヤヨリモ更ニ大ナル事業ヲ成遂シタリキ然リ而シテキリシヤヤローマハ既ニ逝テ復タ歸ラザルニ獨リ彼ハ今日尙ホ世ニアリ加之祖先ノ特色ヲ尙ホ其ノ顔面ニ表セリ

第二ヘブリュー人ノ歴史及ヒ彼等ノ産出シタル觀念ノ一團ハ宗教學上最モ必須ナルモノナリ何チ以テカ蓋シ猶太教ハ基督教ノ前鋒ナルヲ以テナリ誰カ先ツ猶太教ヲ達觀セズシテ而シテ能ク基督教ヲ透視シ得ルモノソ蓋シ基督教ハ猶太教ノ破壊者ニ非ズ否ナ完成者ナレバナリ記憶セヨ基督教ハモトモテ律法ヲ破壊センガ爲メニ來リ賜ヘルニ非ズシテ而シテ其ヲ補充シ矯正シ以テ圓滿極備ナラシメンガ爲メニ來リ賜ヘルヲ聞ク佛教ヲ解セントスルモノハ先ツ韋陀教及ヒ婆羅門教ノ知識ヲ求ムト而シテ新約書ノ奧底ニ臻徹センガ爲メニ要スル舊約書ノ知識ハ決シテ彼等ノ比ニ非ザルナリ矣

全 明治廿五年五月十二日印刷
年 全月廿九日出版

譯者

米田庄太郎
東京市京橋區新榮町七丁目
五十三番地



發行者

太田孝吉
東京市日本橋區新右衛門町
四番地



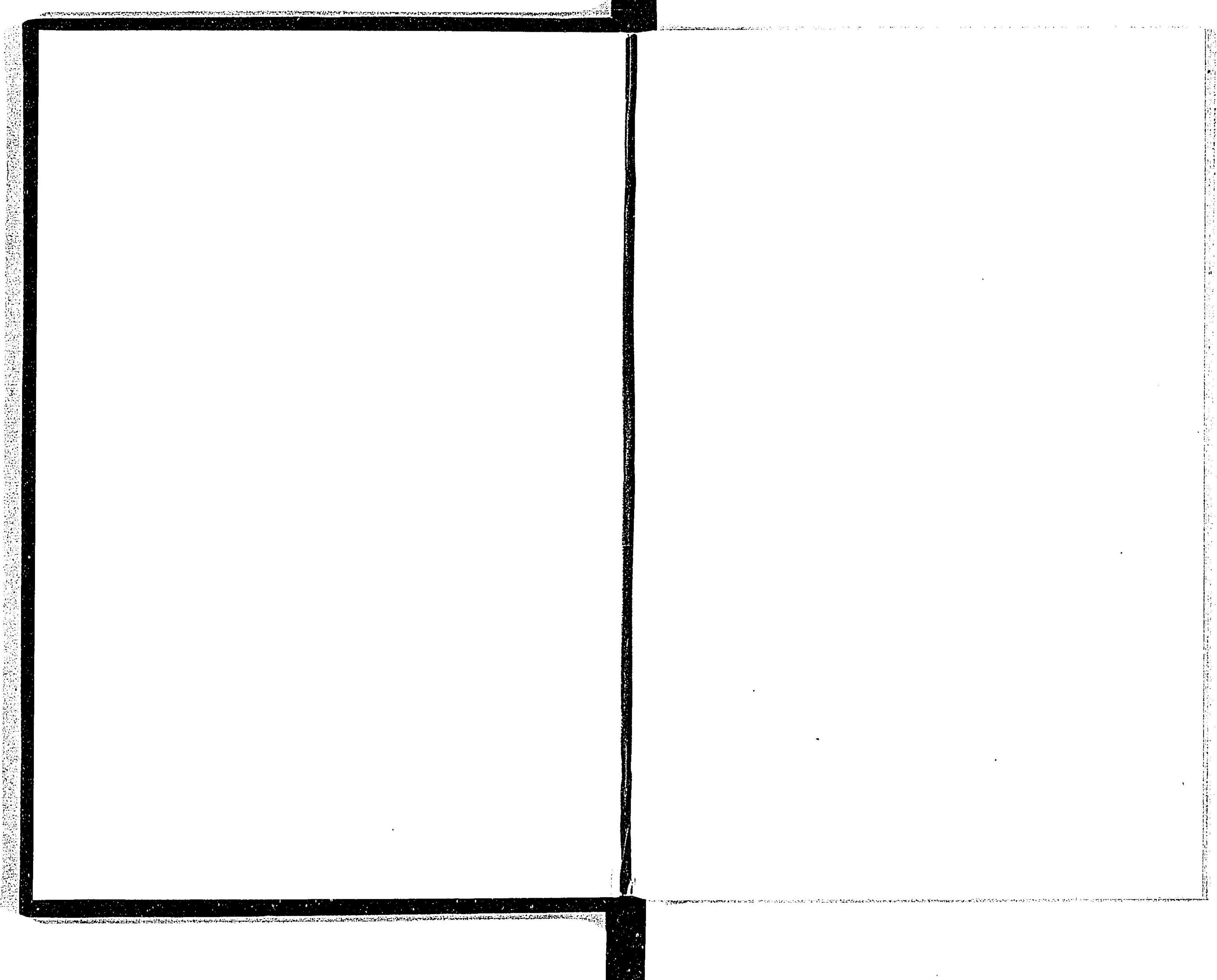
印刷者

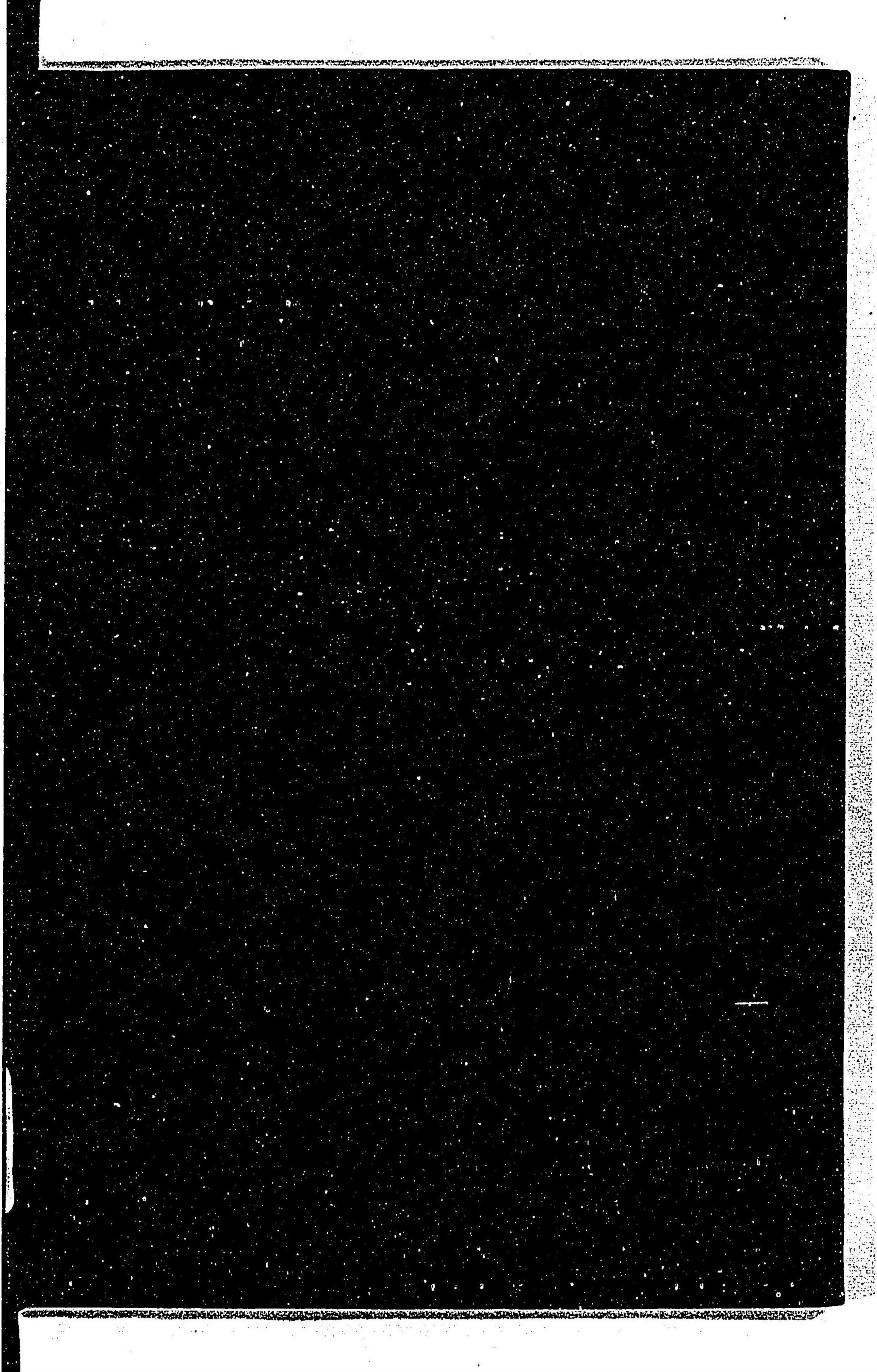
根岸高光
東京市牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目廿三番地

發行所

大日本聖公會書類會社
東京市京橋區銀座二丁目
六番地

215K??





43
52

013752-001-1

43-52

比較宗教学

アイザック・ドゥーマン/著

1冊

M25-28

ABA-0239



